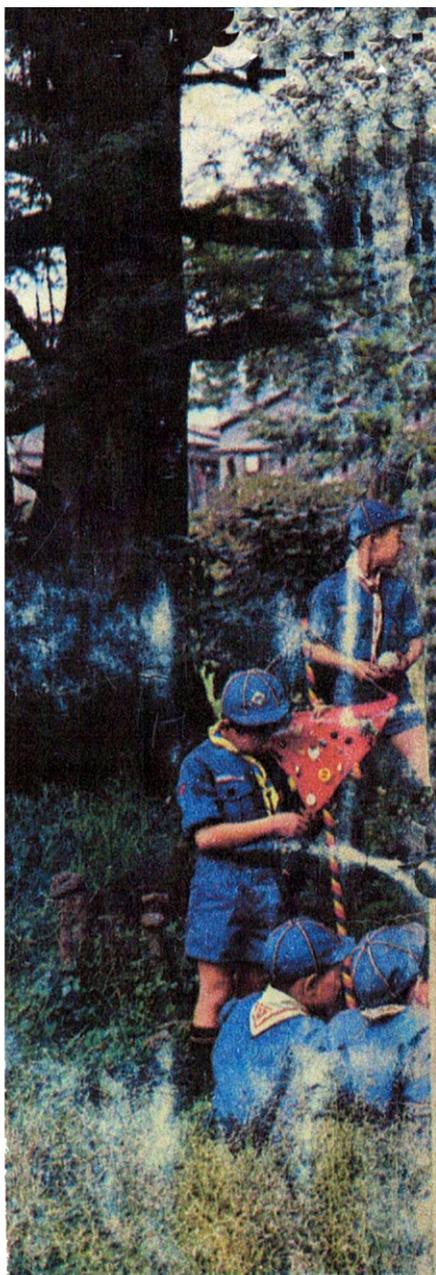


ちやん歌集



ボーイスカウトの歌

中村 知 著



ボーイスカウトの歌

ちーやん歌集

¥350 / 鶴書房盛光社

ちーやん歌集

スカウトの歌

オタマジャクシで書いた
スカウトの指導資料



鶴書房盛光社

儀 礼 歌

1 国旗掲揚	6
2 永遠のスカウト	7
3 星 霜 歌	8
4 B - P 祭	9
5 追 悼 歌	10

カブスカウトの歌

6 カブコール	12
7 カブ山あんない	13
8 狩りの歌	14
9 ジ ロ ッ ポ	16
10 ごぐまの夢	17
11 ほくらのバック	18
12 月 の 輪	19
13 山 の 星	20

少年スカウトの歌

14 初級テスト	22
----------	----

15 青き新しきスカウト	23
16 ちかいの歌	24
17 おきての歌(四部)	26
18 おきての歌	27
19 一 日 一 善	28
20 標 語 の 歌	29
21 な わ 結 び	30
22 スカウト・サイン	32
23 キムスゲーム	33
24 十 六 方 位	34
25 時 計 方 位	35
26 星 方 位	36
27 ほくらの班の名	38
28 ほくらの班旗	39
29 サークルファイアー	40
30 サイン追跡	42
31 グリーン・バー パトロール	43
32 手 旗 信 号	44
33 パトローリング	47
34 ネッカチーフ	48

35 アンノウンスカウト…………… 52	55 古 巢…………… 79
36 天気予報…………… 53	56 水 無 月…………… 80
37 自紀の三訣…………… 55	57 森 の 神…………… 81
38 10種野営料理法…………… 56	58 あ ら し…………… 82
39 ほくら元気…………… 58	59 か え る…………… 83
40 招くぞ招くぞ…………… 60	60 湖 畔 の 朝…………… 84
41 山 鳩…………… 62	61 晩 鐘…………… 85
42 つ の ぶ え…………… 63	62 ほのおの幻想…………… 86
43 テントの種類…………… 64	63 冬 の ま ど い…………… 87
44 野 営 用 具…………… 66	
45 設営・撤営…………… 67	年長スカウトの歌
46 野営の朝夕…………… 68	64 年長隊富士野営の歌…………… 90
47 野営第一日…………… 70	65 玉 ち る 汗…………… 92
48 野営スケッチ…………… 71	66 シースカウト…………… 93
49 新米炊事…………… 72	67 こ だ ま…………… 94
50 モスキートセレナーデ…………… 73	68 移 動 野 営…………… 95
51 キャンピング グーグー…………… 74	69 全夜ハイク…………… 96
52 友 を 憶 う…………… 76	70 スカウト車…………… 97
53 おのの響き…………… 77	71 夜 の 祈 り…………… 99
54 さ く ら…………… 78	72 壮 図…………… 100

-
-
- 73 パイオニアの夢……………101
74 火をたやすな……………102
75 富士スカウトめざして……104

ローバースカウトの歌

- 76 ローバーリングの歌……………106
77 心の灯……………108
78 月下の営火……………109
79 別れの営火……………110

世界友好 笑歌ノ行進歌

- 80 再建のスカウト……………114
81 行こう日本ジャンボリー……116

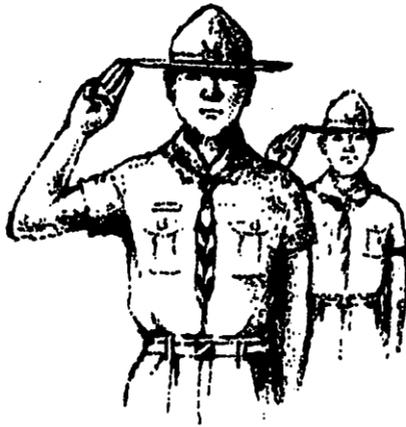
- 82 スカ天狗の世界漫遊記……118
83 ボーイスカウト大行進曲……120

(付) 万葉集から

- 84 一 つ 松……………124
85 ここにして……………125
86 子らを憶う歌……………126
87 家にあれば……………128
88 宴を罷る歌……………129

あとがき……………130

儀 礼 歌



1 国旗掲揚

Round

中村 知 作詞 編曲

しゅ く しゅくと し て
み は た はあ が れ り
あ さ かぜ ー に な び き
い と す が す が し

国旗掲揚けいよう

一 しゅくしゅく(蕭々)として

み旗は あがれり

朝風に なびき

いと すがすがし

二 へんぽん(翩翩)として

み旗は はためき

大空に ひろく

心は おどる

三 しょうしょう(昭々)として

み旗は かがやき

やわらぎ(平和)の光

いよいよ あふる

(一九二六年作 一九三五年改作)

2 永遠のスカウト

中村 知 作詞 作曲

The musical score is written on three staves in a single system. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a common time signature (C). The melody consists of quarter and eighth notes. The lyrics are written below the notes. The second and third staves continue the melody and lyrics. The lyrics are: ひ と た ー び ス カ ウ ト に / ち か い を た て ー て な り し み は / い つ も い つ も ス カ ウ ト だ

永遠のスカウト

- 一 ひとたび スカウトに
「ちかい」をたてて なりし身は
いつもいつも スカウトだ
- 二 ひとたび スカウトに
「ちかい」をたてて なりし身は
いまのいまも スカウトだ
- 三 ひとたび スカウトに
「ちかい」をたてて なりし身は
死ぬときまで スカウトだ
- 四 この世の スカウトに
いのち ささげて つかえなば
死して後も スカウトだ

(一九四八年作)

3 星 霜 歌

ローエン格林の曲

中村 知 作曲



せ いそう せ いそう は やすぎ にしいちー



せいそう せ いそう せ いそう わ がかいなのさ



え ゆく く さにねーし そ のあさ か



がりびーの そ のよる ち かいし わ



れらの む ね にし のおお もいで

星霜歌

一 星霜 星霜

は やすぎ にし × 星霜

星霜 星霜

わ がかいなの 冴えゆく

草に寝し その朝

かがり火の その夜

誓いし われらの胸に

しのお思い出

二 星霜 星霜

また来たらんいく星霜

星霜 星霜

わがゆくて道はるか

さざりとぎさん その朝

あらしさけばん その夜

ひるまず進まん

わが隊旗 栄えあれ

(××は何周年かの数をよみこめ)
(一九二五年作)

4 B—P 祭

中村知 作詞 作曲



に がつ の に じゅう ー に にち こ そ



ボ ー イ ス カ ウ ト を は じ め た る



ロ ー ド ベ ー デ ン パ ウ エ ル の



う ま れ た ひ で す ー ぼ く た ち は



こ の ひ を い わ う ー ビ ー ビ ー さい

B—P 祭

一 二月の二十二日こそ

ボーイスカウトをはじめたる
ロードベーンパウエルの
生まれた日です ぼくたちは
この日を祝う B—P 祭

二 早咲く春の花のたば

かおりも清き白梅を
かざりささげて B—P の
徳をしたいて一日を
たのしく祝う B—P 祭

三 世界の八十余か国の

スカウト兄弟姉妹たち
同じちかいややくそくの
光をかかげむつみあい
歌いて祝う B—P 祭

(一九三二年作曲 一九五〇年作詞)

5 追悼歌

Dolente

中村知 作詩作曲

いとふかきもりのおく
わけてーふみいりしそのおお
いなるーそくせきーは
ここにーおわりてあまがけりー
くーものにのぼりーぬ

追悼歌

いと深き森の奥

わけてふみ入りし

その巨なる足跡は

ここに終わりて

天翔けり雲に昇りぬ

スカウトのかがみなる人ぞ

まれにみるすぐれしいさお

「永遠のスカウト」

ここに身をもちて

道をのこしぬ

三 山行かば 思いぞ涙

露しげき 昔の森の

かがり火の 焔の中に

ありし日の み姿

しのぶかな

(一九四九年八月二十七日作)

カブスカウトの歌



6 カブコール

中村 知 作詞 作曲



カブコール

(L) りす (CS) りす

(L) うさぎ (CS) うさぎ

(L) しか (CS) しか

(L) くま (CS) くま

(つきのわ) つきのわ

(全員) りす うさぎ しか くま

つきのわ

ウオウ ウオウ

(一九五一年三月作)

7 カブ山あんない

中村 知 作詞 作曲

りすりす カブやま もりの
うさぎ うさぎ カブやま たにの

えだから えだへ ピン ピン ピン
ささはら わけて ガッサ ガササ

みちあんないだる さんねん むつきの
みちひらいてる

つきよの かりに くまの の どのに -

つきの わ ひ か る

カブ山あんない

一 りすりす カブ山森の 枝から枝へ
ピヨピヨ ピヨピヨ ピヨ

道あんないだ

二 うさぎ-うさぎ カブ山谷の
ささ原わけて ガッサ ガササ
道ひらいてる

三 しかしか カブ山みねの
おねからおねへ タッタ タッタ
足あとつける

四 くま くま カブ山おくの
ほらあなきよめ ノッソ ノッソ
ほくらをまねく

五 三年六つきの 月夜の狩りに
くまの のどに つきのわひかる

(一九五二年五月四日作)

8 狩りの歌

中村 知 作詞 作曲

**Presto**

Adagio



a tempo



狩りの歌

ジャン ドンドン ジャン ドンドン
 ウオウ ウオウ ウオウ ウオウ
 ジャガ ジャガ ドンドン
 ジャガ ドンドン
 カブたい あつまれ!

(間)(急速に)

うさぎ うさぎ 斥候だ
 しかしか おつかける
 りすりす 伝令だ
 くまくま まちうけ くみうちだ

(間)(ゆっくりのどかに)

狩りはすんだ えものはみこと

カブの山は 星かげはれて

ひかる月の輪 大空に

(もとの早さにもどって)

ランラン ラララ ララララ ラララ
 ララ ラ ウオウ ウオウ ウオウ!

(一九五二年五月十九日作)

9 ジロツポ

井上茂 作詞
中村知 作曲



いたずらこじかのジロツポは



ながれのみずで ジャブジャブと きれいにけなみを



あらったが ー どんごっこで どんまみれ



さー あたいへん しかられる



ピー ヨ ピー ヨ ピー ヨ ヨ

ジロツポ

- 一 いたずらこじかの ジロツポは
ながれの水で ジャブジャブと
きれいにけなみを あらったが
どんごっこで どんまみれ
さあ たいへん しかられる
ピーヨ ピーヨ ピーヨヨ
- 二 いたずらこじかの ジロツポは
ちいさいつのが うれしくて
ツバキのみきを こづいたら
まっかな花が おちてきた
さあ たいへん そらにけろ
ピーヨ ピーヨ ピーヨヨ
- 三 いたずらこじかの ジロツポは
すましたかおして 森のみち
ひづめじまんで かけすぎて
足柄山へ かえれない
さあ たいへん どうしよう
ピーヨ ピーヨ ピーヨヨ

(一九五七年九月六日作)

10 こぐまの夢

井上 茂 作詞
中村 知 作曲

ひ る ね の ゆ ー め に く ま の こ



は む こう の お や ま の か じ を み



て く り の き に の ほ っ て (ホラ)



な が め た ら ピ カ ピ カ ゴ ロ ゴ ロ



か み な り だ か み な り だ

子ぐまの夢

一 ひるねの夢に くまの子は

むこうのお山の火事を見て

栗の木にのぼって(ホラ)ながめたら

ピカピカ ゴロゴロ

かみなりだ かみなりだ

二 三日三晩もふりつづく

足柄山の大雨に

谷間にかけて(ア)杉の木が

こぐまをのせて

丸木舟 丸木舟

三 ゴーゴー流され 滝の上

くまの子あぶないそらピユーツと

藤づる投げて(ホイ)金太郎

丸木の舟を

とめたとき とめたとき

(一九五七年八月作)

11 ぼくらのパック

ドイツのカブの歌曲

中村 知 抄訳詞



さあ かりにゆこう よ もりのなか に



おお かみ な か ま ゆか ない も の は



よわむしだ おなかがすくぞ おう



ぼくらのみ み ぼくらの は な え も の を さが す

ぼくらのパック

一 さあ 狩カに行こうよ 森の中に

オオカミなかも

行かないものは よわ虫だ

おなかがすくぞ

おう ぼくらの耳ミミえもの ぼくらの鼻ハナ

えものを さがす

二 おう へやの中でじっとするのは

オオカミじゃない

ながよくみんなで歌おうよ

工作しよう

さあ いそがしいが

おもしろくて

なんともいえない

(一九六四年八月作)

12 月 の 輪

中村 知 作詞 作曲



カブやまのよる うすぐもの
くーまののどの つきのわは



たなびくそらに つきのかさ
つきよのもりに よいかりと



きれいなにじの つきのわは
よいことをした しるしです



よいかりせよの あいづですな
ほくらののどに つけたいな

月の輪

一 カブ山のよる

うすぐもの

たなびくそらに

つきのかさ

きれいなにじの

つきのわは

よいかりせよの

あいずです

二 くまののどの

つきのわは

つきよにもりで

よいかりと

よいことをした

しるしです

ほくらののどに

つけたいな

(一九五二年五月十五日作)

13 山の星

中村 知 作詞 作曲



キラリ - キラ キラ やまのほ



し - かんてんごやを -



こらしてる - とおくに



ひびく みづのおと -

山の星

一 キラリ キラキラ 山の星

寒天小屋を照してる

遠くにひびく 水の音

二 キラリ キラキラ 金の星

水車の小屋を照してる

はるかにひびく 杵の音

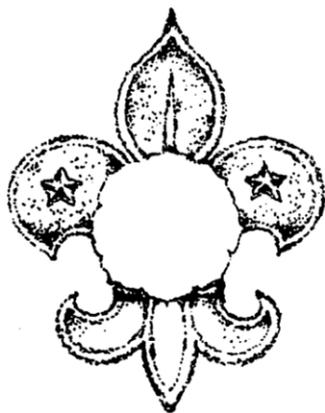
三 キラリ キラキラ 銀の星

ぼくらのテント照してる

かすかにひびく 虫の声

(一九三三年秋作)

少年スカウトの歌



14 初級テスト

原曲 "Bingo"

中村 知 作詞



しきゅうのテストは なにと な に -



ち かい おきて スカウト バッジ



スカウト サイン ひょうごとしゅ ちょう

初級テスト

- 一 初級のテストは 何と何
ちかい おきて スカウトバッジ
スカウトサイン 標語と主張
- 二 三指の札法 スマートに
左手握手 制服知識
国旗の意義 掲揚法
- 三 脈膊 体温 測り方
その変化と 病気の関係
切り傷 すり傷 消毒 包帯
- 四 自分の身長 体重と
からだ利用の 計測法に
身振信号 集合隊形
- 五 結索法は 本結び
一重つき 巻結び もやい ちぢめ
ふたむすびなど 六種ある
- (一九六六年 作)

15 青き新しきスカウト

米国スカウト歌曲

中村 知 作詞

Allegro Vivace Umore

ぼくは こんどはいつた かりにゆう たいいん
 だ ちかい おきて の あんきも
 まだできぬ コカチェ ランク チェランク チェ
 レイ リ コカチェ ランク チェランク チェ レイ コカチェ
 ランクチェランクチェ レイ リ そ ら が ー ん ぼ ろ う

青き新しきスカウト

一 ぼくはこんどはいつた飯入隊員だ
 「ちかい」「おきて」の暗記も
 まだできぬ

コカチェ ランクチェ
 ランクチェ レイリ
 コカチェ ランクチェ
 ランクチェ レイ
 コカチェ ランクチェ
 ランクチェ レイリ

そら がんばろう

二 ぼくはこんどはいつた飯入隊員だ
 標語 サインのわけさえ
 まだいえぬ

(くりかえし)

三 ぼくはこんどはいつた飯入隊員だ
 国旗の由来も掲揚法も
 まだ知らぬ

(くりかえし)

四 ぼくはこんどはいつた飯入隊員だ
 六種結索法の半分も
 まだできぬ

(くりかえし)

(一九四六年作)

16 ちかいの歌

中村 知 作曲 配詞

Maestros

わたくし は めいよに か けて



つぎの さんじゅう の じっこう



を ち か い - ま - す

ひ と つ か み と - く に と に
ほ と け と

ま こ と を つ - く し お き て を ま も



り - ま - す ひ と つ い つ も -



「ちかい」の歌

わたくしは 名譽にかけて、
次の三条の 実行を誓います

ひとつ 神（仏）と国とに誠を尽し
「おきて」を守ります

ひとつ いつも 他の人々を
援けます

ひとつ 体を強くし 心をすこやかに
徳を養います

17 おきての歌 (四部合唱)

espressivo

中村 知 配詞 作曲

スカウトはせいじつである

スカウトはちゅうせつをつくす

スカウトはひとのいちから

にーなーる

18 おきての歌

中村 知 配詞 作曲



1. ス カ ウ ト は せ い じ つ で ある
 2. ス カ ウ ト は せ ゆ う ぎ に あ つ い
 3. ス カ ウ ト は じ ゆ う じ ん で ある
 4. ス カ ウ ト は ゆ う か ん で ある



ス カ ウ ト は ち ゆ う せ つ を つ く す ス カ ウ ト
 ス カ ウ ト は れ い ぎ た だ し いる ス カ ウ ト
 ス カ ウ ト は か い か つ で あ る ス カ ウ ト
 ス カ ウ ト は じ ん け つ で あ る ス カ ウ



は ひ と の 一 ち か ら る に な る
 は し と せ つ っ で あ る ス カ ウ ト は
 は し っ そ し み あ る ス カ ウ ト は
 は っ つ し み ぶ か い ス カ ウ ト は

「おきて」の歌

一 スカウトは 誠実である
 スカウトは 忠誠を尽す
 スカウトは 人の力になる

二 スカウトは 友誼に厚い
 スカウトは 礼儀正しい
 スカウトは 親切である スカウトは

三 スカウトは 従順である
 スカウトは 快活である
 スカウトは 質素である スカウトは

四 スカウトは 勇敢である
 スカウトは 純潔である
 スカウトは つつしみ深い スカウトは

(一九四八年十月九日作曲)

19 一日一善

中村知 作詞 編曲



いちにち いちぜん かならず しょう



このよのめぐみに おかえし しょう

[4番と5番のあいだに入れる]



デイリーグッドターン デイリーグッドターン



ターン ターン ターン ターン ターン ターン ターン ターン

- | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|--------------|------------------|-------------|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 八 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | 一 |
| この世は明るく きれいになるよ | 見る人 聞く人 みんながまねる | 一日一善 善いことすれば | しなけりやなんだか 気持ちが悪い | 一日一善 習慣となれば | 一日十善 百善しよう | それではたらぬ | 一日一善 | 必ずしよう |
| | | | | デイリーグッド ターン | デイリーグッド ターン | この世の恵みに お返ししよう | この世の恵みに お返ししよう | この世の恵みに お返ししよう |
| | | | | デイリーグッド ターン | デイリーグッド ターン | その上 お礼やごほうび いらぬ | その上 お礼やごほうび いらぬ | その上 お礼やごほうび いらぬ |
| | | | | デイリーグッド ターン | デイリーグッド ターン | 機会がさがせば 手近にあるよ | 機会がさがせば 手近にあるよ | 機会がさがせば 手近にあるよ |
| | | | | デイリーグッド ターン | デイリーグッド ターン | 一日一善 おこたるときは | 一日一善 おこたるときは | 一日一善 おこたるときは |
| | | | | デイリーグッド ターン | デイリーグッド ターン | あくる日 二倍のよいことしよう | あくる日 二倍のよいことしよう | あくる日 二倍のよいことしよう |

20 標語の歌

中村 知 作詞 作曲



こころに そなえよ こころを そなえよ



ちかいを わすれず おきてを まもり



きづけ じんかく そなえよ つねに

標語の歌

一 心にそなえよ 心をそなえよ

「ちかい」を忘れず 「おきて」を守り

きづけ人格 そなえよ つねに

二 体にそなえよ 体をそなえよ

強くきたえて いたわり護り

伸ばせ健康 そなえよ つねに

三 技にそなえよ 技をそなえよ

たのしく究めて 役だつ力

みがけ技能 そなえよ つねに

四 務めにそなえよ 務めをそなえよ

一日一善 勇みてはげみ

つくせ奉仕 そなえよ つねに

五 人格 健康 技能 奉仕の

四本の柱を ふとく高めて

かかげスカウト B-Pの標語

(一九五二年十一月十三日作)

21 なわ結び

中村 知 作詞 編曲



な わ む す び ふ た つ の つ な を む
 な が い つ な き ら ず に ち ち め る



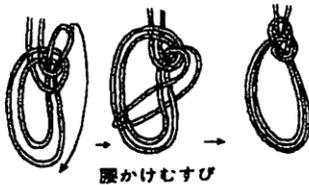
す ー び あ わ す に ほ ん む す び
 ち ち め ー む す び は べ ん り だ



ひ と え ー つ な ぎ に ふ た え ー つ な ぎ て
 し ん し ゅ く じ ざ い に か げ ん が で き る と



ぐ す む す び が で き ー た
 ウ ー ト ラ イ ン ヒ ッ チ が で き る か



腰かけむすび



まさむすび



ねじりむすび

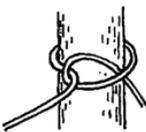
材木むすび



ちちめむすび

なわ結び

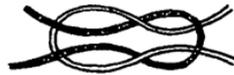
- 一 なわ結び ふたつの綱を結び合わすに 本結び
一重つなぎに二重つなぎでくす結びができた
- 二 なわ結び 綱のはしに輪をこしらえる 叶結び
ひきとけ結びに ふた結び もやい結びができた
- 三 なわ結び とりつけしたり 荷作りするに巻結び
材木結びに 垣根結び 男結びができた
- 四 長い綱 切らずにちぢめる 縮め結びは便利だ
伸縮自在に加減ができる トウートライン
ヒッチができるか?
- 五 ナイヤガラ 滝の流れにおし流されてる人がある
橋の上からロープをおろす スカウトだったら助ける
- 六 救助には もやい結びと腰かけ結びが必要だ
それに綱をつぎたすときは てくす結びでつなげ



ひとむすび



ふたむすび



ほんむすび



もやいむすび



ひとえつなぎ



てくすむすび



ふたえつなぎ

22 スカウト・サイン

メンデルスゾーン原曲

中村 知 作詞



み一つのちかいのこころをこめて



スカウトバッジのかたちによせて



み一つのゆびでのスカウトサイン



ちかいのしるしなかまのあいづ



めいよにかけたしんぎのサイン

スカウト・サイン

一 三つの「ちかい」の
心をこめてスカウトバッジの形によせて
三つの指でのスカウトサイン
「ちかい」のしるし仲間のあいず
名譽にかけた信義のサイン二 人種 民族 国籍 言葉
信教 風習 ちがいはあれど
「ちかい」は変らぬスカウト兄弟
友情のしるし
同志のあいず
世界を結ぶ無言のサイン

(一九四八年作)

23 キムスゲーム

米國スカウト 曲
中村 知 作詞



に じしの し なもの ならべます



いっぶんかんみ させて それから かくして



おーもいださせて かかす このおもしろい



キムスゲ ームは に きゅう こうさの テスト

キムスゲーム

一 二十四の品物ならべます一分間見させて
それからかくして思い出させて書かす
このおもしろいキムスゲームは
二級考査のテスト

二 二十四の品物何でしょう十六以上を
答えられたら君はテストに合格だ
このおもしろいキムスゲームは
キムポール・オハラキムポール・オハラのテスト

三 キムポール・オハラはみなし子で
インドで死んだアイルランド兵の子
父のいた部隊にすくわれる
その教育は宝石商人ラーガンさんがあたる

四 キムは宝石鑑定や多くのテストで
鍛えられて諜報任務で名を残す
このおもしろい「キム物語」は
文豪キプリングの傑作だ

(一九四八年作)

24 十六方位

ハノーヴァー民謡
中村知 作詞 編曲



きたからみぎに ほくほくと



ほくとうつぎは とうほくと ひがしのつぎは



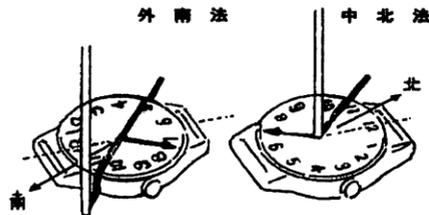
とうなん と なんとつぎは なんなん と

十六方位

- 一
北から右に 北北東
北東 次は 東北東
東の次は 東南東
南東 次は 南南東

- 二
南の次は 南南西
南西 次は 西南西
西の次は 西北西
北西 次は 北北西

(一九五一年十月一日作)



25 時計方位

Horrison 原曲

中村 知 作詞 編曲



と けい の ちゅうしんに ほせいほうを たてて



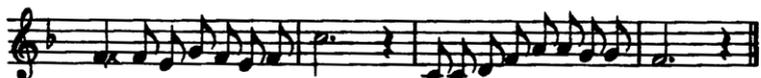
そ の ほうの かーげを たんしんと あわせ



じゅうにじの せーんと つくった かくの



へ いぶん せーんが きたをば しめす



ちゅう-ほくほう と なづけておぼえよ う

時計方位

一 時計の中心に 細い棒を立てて

その棒の影を 短針と合わせ

十二時の線と 作った角の

平分線が 北をば示す

中北法と 名づけて

おぼえよう

二 時計の外がわの 短針の先きに

棒を立て その影を短針と合わせ

十二時の線と 作った角の

平分線が 南を示す

外南法と 名づけて

おぼえよう

(一九四九年七月九日作)

26 星 方 位

米 国 B S 曲
中 村 知 作 詞



お お く ま ぎ の し ゅ く の そ こ の



ふ た つ の ほ し を む す び あ い



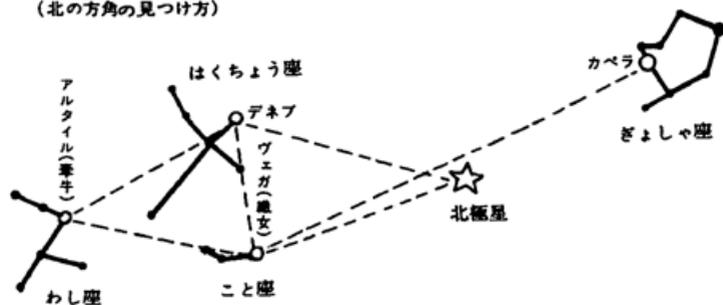
ご ぼ い の な が さ に の ぼ し た ら



そ こ ら に ピ カ ッ と ほ っ き ゅ く せ い

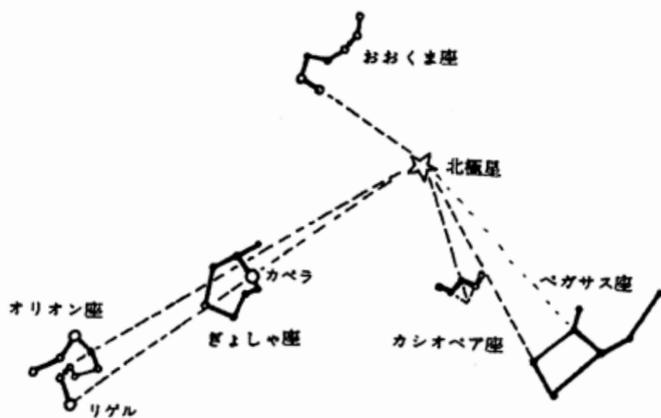
星 方 位

(北の方角の見つけ方)



星方位

- 一 大熊座の杓すくの底の二つの星を結びあい
 五倍ごばいの長さながさにのばしたら
 そこらそこらにピカッと北極星きたきょくせい
- 二 カシオペアのWの
 そとの四つ星よっつせいのばしあい
 その延長のびのなす角かくの
 平分線へんぶんせん上に北極星
- 三 オリオン座の長方形の
 短かい辺みぢななみの平分が
 星雲せいうんと三つ星さんせいつらぬいて
 のびゆく線せん上に北極星
- 四 ベガス座の大矩形の
 短かい方みぢななみの二辺ふたへをば
 のばして交まわる方向ほうに
 よく見みりヤビカッと北極星
- 五 オリオン座オリオン座のリゲルと
 馭者座ヨウシャ座のアルファア、カペーラと
 二つを結むすんでのばしたら
 その延長のびに北極星
- 六 その馭者座ヨウシャ座のカペーラと
 琴座カニ座のアルファア、ウエーガ(織姫)を
 結むすんだ線せんのまん中なかつを
 はずれてピカッと北極星
- 七 その琴座カニ座の織姫(織姫)と
 鷲座じゆ座のアルファア、牽牛(アルタイル)と
 白鳥座びやくてう座のアネアとを
 結むすんでひっくり返かええしや北極星
- 八 オリオン座の三つ星の
 のぼるを見れば真東まひだりだ
 しずむところは真西まにしです
 これで東西見みわけます
 (一九四九年七月八日作)



27 ぼくらの班の名

米国歌曲“オースザンナ”

中村知作詞



ぼくらのはんのなはとほんだ



キャンプのでんれいにほんいち



ポッポ ポポーとつたえたら



ごくろうでしたとみんないう

ぼくらの班の名

一 ぼくらの班の名ハト班だ

キャンプの伝令日本一

ポッポ ポポーと伝えたら

ご苦労でしたとみんないう

二 ぼくらの班の名カッター班

キャンプの朝おき世界一

ガッコー カコーとよんだなら

となりのテントも目をさます

三 ぼくらの班の名フクロ班

キャンプの夜の番天下一

ホッポホポーとないたなら

スワ一大事とみんなおきる

(一九四九年作)

28 ぼくらの班旗

H. P. Palmer 曲

中村 知 作詞



そよ ふう かぜに ひら ひら



ぼくらの はんき わら っ て る



みどりの のべに けわしき やまに



ぼくらの はんき ひらめく よ



ぼくらの はんき ひらめく みれば



ぼくらの こころ おどり た つ

ぼくらの班旗

一 そよふう風にひらひら

ぼくらの班旗 わらつて

みどりの野辺にけわしき山に

ぼくらの班旗 ひらめくよ

ぼくらの班旗 ひらめく見れば

ぼくらの心おどりとつ

二 晴れたる空にひらひら

ぼくらの班旗 進み行く

たのしいときも 苦しいときも

ぼくらは班旗 おし立てて

ぼくらの班旗 その行くところ

ぼくらは共に道を行く

(一九四九年二月二日作)

29 サークルファイアー

山口季次郎 採譜写詞

中村 知 作詞充当



きょう ははんの あつまりだ みんなでゆこう
 (土語)カ イ タ ナ タクバクタイ アールワンナ



おくれずに たの しーい ゲーム や
 イヤヤヤオイ イ ヨーオ ヤーンウーワ



おもしろいうたをうた おーう
 ヤンウワ イヤ ヤンウワ イヤ アーン

(原曲は台湾バイワン族ピナン社 童児集会の歌と曲)



サークル・ファイアー

一 きょうは班ばんの集りだ

みんなで行こう おくれずに

たのしいゲームやおもしろい歌をうたおう

カーイ タナ タク バク タイ

アール ワン ナ イ ナ ナ ヤ オ イ

イーヨー オ ヤーン ウー ワイ

ヤン ウー ワイ ヤ アン ウー ワ

イヤ アーン

二 今夜は隊の集まりだ

さそって行こう おくれずに

ゆかいなキャンプやハイキングの相談しよう

カーイ タナ アダト ア タイ

アール ワン ナ イ ナ ナ ヤ オ イ

イーヨー オ ヤン ウー ワイ

ヤン ウー ワイ ヤ アン ウー ワ

イヤ アーン

三 うんと歌おうなごやかに

わっとわらおう ほがらかに

たのしいシンポジウム かがり火は赤々と

イーヌー タナ タク バク パン

アール ワン ナ イ ナ ナ ヤ オ イ

イーヨー オ ヤーン ウー ワイ

ヤン ウー ワイ ヤ アン ウー ワ イ ヤ アーン

四 どんとはやそうにぎやかに

びよんとおどろう はなやかに

たのしいシンポジウム 火はもえる 赤々と

A B C D E F G H I J K L M N

O P Q R S T U V W X Y Z

(一九四二年作)

30 サイン追跡

中村 知 作詞 編曲

みちのはたにふとらいサインじゅ
くしさのうえかにしかくいサインやて

うーじのサインだよかえれめ
がーたのサインだよすすめ
がーみのサインだよさがせ

ラララララララララララララララララ

ララララくさもきもいーしも

わーらもみんなサインだみつけろ

サイン追跡ついで

一 道のはたにふといサイン
十字のサインだよ掃れ

ララララララララララララ
ララララララララララララ

草も木も石もわらも
みんなサインだ見つけろ

二 石の上に白いサイン
矢形やがたのサインだよ進め

(ラララ……くりかえし)

三 草の中に四角しかどいサイン
手紙のサインだよさがせ

(ラララ……くりかえし)

(一九三九年作)

31 グリーン・パーパトロール

外国曲 Imitation Song

中村 知 作 詞



グ リ ー ン パ ー パ ト ロ ー ル



は ん ち ょ う と じ ち ょ う グ リ ー ン の せ ん



う で に ー に ほ ん い っ ぽ ん

グ リ ー ン ・ パ ー パ ト ロ ー ル

- 一 グリーン・パーパトロール
班長と次長 グリーンの線 腕に
二本 一本
- 二 グリーン・パーパトロール
班長は隊長 次長は上級班長
みんながんばろう
- 三 グリーン・パーパトロール
ツループの電源 きょうもまた訓練
馬力あげよう
- 四 グリーン・パーパトロール
なまけるならば 電力低下
火をたやすな
- 五 グリーン・パーパトロール
やがては次の 隊付 副長
隊長となる

32 手旗信号

(序曲)

中村 知 作詞 編曲



ジャンプラン てば た しんごう ジャンプラン げんかくれんしゅう



ジャンプラン きご うれんしゅう げんしはこーれーだ

(本曲)



原画… (れいげんかく いちげんかく にげんかく さんげんかく
しちげんかく はちげんかく くげんかく じゅうげんかく

記号… (起 しんきごう おうしんきごう いちふかぜんぶのしゅうしんきごう
ちゅうけいきごう りやくごうきごう くてんきごう しんしゅうきごう
だくてんきごう はんだくてんき じせんきごう ちょうおんきごう



しげんかく ごげんかく ろくげんかくーだ
じゅういちげんかく じゅうにーげんかく じゅうさんげんかく じゅうし
コンマ きごう カッ コ きごう しゅうカッコきごーう
もんぶ きごう しゅうしんきごう かいしんきごーう
すうじ きごう ぜんごにはさみ へんじ をまーつ



ジョン・ブラン て ばた しんごう ジョン・ブラン げんかくじゅうご



ジョン・ブラン き ごうじゅうはち ごうけいさんじゅう さん

手旗信号

ジョン・ブラン	手旗信号
ジョン・ブラン	原画練習
ジョン・ブラン	記号練習
原画	原姿はこれだ
一原画	二原画
二原画	三原画
三原画	四原画
四原画	五原画
五原画	六原画だ
六原画	七原画
七原画	八原画
八原画	九原画
九原画	十原画
十原画	十一原画
十一原画	十二原画
十二原画	十三原画
十三原画	十四
十四	起信記号
起信記号	応信記号
応信記号	一部か全部の消信記号
一部か全部の消信記号	コンマ記号
コンマ記号	カッコ記号
カッコ記号	小カッコ記号
小カッコ記号	中継記号
中継記号	略号記号
略号記号	句点記号
句点記号	新章記号
新章記号	問符記号
問符記号	終信記号
終信記号	解信記号
解信記号	濁点記号
濁点記号	半濁点
半濁点	削除線記号
削除線記号	長音記号
長音記号	数字記号
数字記号	前後にはさみ
前後にはさみ	返事を待つ
返事を待つ	ジョン・ブラン
ジョン・ブラン	手旗信号
手旗信号	ジョン・ブラン
ジョン・ブラン	原画十五
原画十五	ジョン・ブラン
ジョン・ブラン	記号十八
記号十八	合計
合計	三十三

33 パトローリング

原曲 "Tramp"

中村 知 作詞



せんとうはにばんうよくはよばんさよ



くはごばんですすめーしんがりさんばんまん



なかはんちろくひちはちばんじしだー

みよパトローリングいおどうどうとはん
タタタタタタタララララララはんきをたててサインをおうてそなえよつねにですすめー
きをたててサインをおうていちにちいぜんですすめー

パトローリング

先頭は二番 右翼は四番

左翼は五番で 進め

しんがり三番 まん中班長

六、七、八番 助手だ

見よパトローリング

威風堂々と班旗を立てて

サインを追うて

「そなえよつねに」で進め

タタ タタタタ ター

ララ ララララ ラ

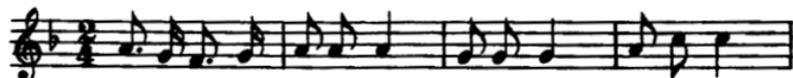
班旗を立ててサインを追うて

「一月一善」で 進め

(一九四〇年十月作)

34 ネッカチーフ

外国歌曲
中村知 作詞



くびからかけた ネッカチーフ ネッカチーフ



いーろでたいべつ すぐわかる

一般用 (—はネッカチーフのくりかえし)

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 首からかけた — —
色で隊別すぐわかる | 10 もし無いときは — —
おぼんやお血 ^ち のかわりする |
| 2 ネクタイがわりの — —
かざりであって かざりでない | 11 頭にあてて — —
荷物を頭で運ぶ人 |
| 3 ふろしきになる — —
荷物をたばねりや運搬用 | 12 ロープのかわり — —
家畜をつなぐ綱となる |
| 4 食卓カバーに — —
食用カバーの役もする | 13 赤い色の — —
危険を知らず目じるしに |
| 5 非常の場合 — —
帯やバンドのかわりする | 14 手ぶくろがわりに — —
防弾傘手の役をする |
| 6 とっさの場合 — —
四枚で着物のかわりする | 15 足にまけば — —
くつ下代用 防寒具 |
| 7 炊事の場合 — —
エプロンになるすてきだろう | 16 えりまきがわり — —
寒さによって加減する |
| 8 料理のときは — —
頭にかぶりやコック帽 | 17 水あびるとき — —
ホースの役するシャワーパス |
| 9 掃除のときは — —
頭にかぶりやごみふせぐ | 18 革具の手入れ — —
まるめてふけば光ります |

- 19 ほこりやごみを — —
はたいて落す掃除用
- 20 電灯のかさに — —
かけて光をくらくする
- 21 真夏の光 — —
カーテンがわりに目を防ぐ
- 22 真冬の寒気 — —
凍傷ふせぐ耳カバー
- 23 衣服のほこり — —
はたいておとす便利です
- 24 もえないたき火 — —
ひろげてあおげばよくもえる
- 25 熱い食器を — —
おろす場合に手にあてる

訓練用

- 1 ロープの代用 — —
結索練習に使われる
- 2 一日一善 — —
結んだ結び目といてよい
- 3 全員つなげば — —
隊で作れる非常線
- 4 遭難信号 — —
救助を求める旗となる
- 5 手旗信号 — —
手旗のかわりに手にもって
- 6 モールス信号 — —
単旗の代用つとめます
- 7 発煙モールス — —
煙をあげる幕となる
- 8 破ぶれた古い — —
道標サインに切って使う
- 9 ソングのけいこ — —
手に持って振ってタクトとる
- 10 水泳場で — —
級別つけてかぶります
- 11 管火の罫に — —
紛装仮装の材料に
- 12 キャンプの夜に — —
蚊帳のかわりにかぶります
- 13 管火のときに — —
帽子のかわりにかぶる人
- 14 救命綱に — —
いくつもつなぐ けいこせよ
- 15 土矢をすれば — —
つないではしごが作られる
- 16 四、五枚つなぎ — —
ボートにあげる帆ができる
- 17 マイハタとして — —
船底水もれ防がれる
- 18 野宿の夜は — —
ひろげて夜幕が防がれる
- 19 キャンプの炊事場 — —
食品つつんで吊す人
- 20 テントのごみを — —
用いてはたけばよくおちる
- 21 暗夜の山路 — —
手にもちたがいの運箱に

- 22 急流渡渉 — —
たがいに持ちあい流されぬ
- 23 非常の場合 — —
川水ろ過する布となる
- 24 はだかになって — —
全身こすれば乾布摩擦
- 25 炊事の当番 — —
食糧買いに持って行く

ゲーム用

- 1 バンドのかわりに — —
しめてりや金具のけがはない
- 2 ゲームのチーム — —
しめ方変えて区別する
- 3 足をくくる — —
二人三脚おもしろい
- 4 きつねの尾とり — —
しっぽにこれをぶらさげる
- 5 目かくし用に — —
いつもまにあい童宝だ
- 6 頭に結び — —
帽子とりゲームの勇ましき
- 7 たくさんつないだ — —
なわとび用につかわれる
- 8 手のひらにおいた — —
ゆだん大敵 うばわれる
- 9 リレーのときに — —
バトンがわりにつかわれる
- 10 口鼻ふさぐ — —
おしのゲームはいかがです
- 11 両耳ふさぐ — —
つんぼのゲームもひと工夫
- 12 人の腰を — —
つないで連絡 かけくらべ
- 13 スタートラインに — —
ゴールラインに使われる
- 14 番号取りゲーム — —
獲物の役につかわれる
- 15 旗の代用 — —
転回地点を示します
- 16 ぐるぐるまるめた — —
ボールのかわりに投げられる
- 17 手のひらに巻けば — —
グローブがわりだ なるほどね
- 18 ジャングルゲーム — —
ほほかむりして やぶにもぐる
- 19 小川にはいり — —
メダカをすくう網代用
- 20 急場の水泳 — —
ふんどしがわりになりそうだ
- 21 高く投げた — —
落ちるまで大笑い落ちたらだまる
- 22 三角形の — —
できるだけたくさん包む競争
- 23 遊対抗で — —
すばやくつなく非常線
- 24 キムスゲーム — —
品物かくす布となる
- 25 ゲームの応援 — —
ペナントがわりにもふるのです

救急用

- 1 首の日射^{ひび} — —
これをかけてりゃ防がれる
- 2 頭を冷すに — —
タオルがわりにぬらします
- 3 温湿布^{ぬれふ}には — —
お湯でしめして用います
- 4 患者^{かんじや}の顔に — —
かければ日おいと雨おいに
- 5 キャンプの夜中 — —
のどに巻いてりゃかぜひかぬ
- 6 おなかに巻けば — —
これでも十分 腹巻^{はらまき}きだ
- 7 熱い水筒巻いた — —
新案特許の湯たんぼだ
- 8 止血のときに — —
圧迫^{あつぱく}ほうたいの役をする
- 9 動脈止血 — —
棒にまきつけしほり止め
- 10 吊りほうたいに — —
いつも役だつ外科結び
- 11 骨折^{こっせ}手当て — —
副木^{ふくぎ}結ぶにもってこい
- 12 手首にほうたい — —
それをば首に吊りほうたい
- 13 頭の負傷^{おんじやう} — —
手当てのときの三角巾^{さんかくけん}
- 14 くじいた足を — —
他の足にくくって保たせる
- 15 手足の負傷^{おんじやう} — —
つつんで守る三角巾^{さんかくけん}
- 16 股下^{もももと}止血 — —
まるめてはさんで止血する
- 17 鎖骨^{さかく}の破損^{はたん} — —
三枚用いて手当てする
- 18 腰部^{こし}の骨折^{こっせ} — —
八、九枚用いて手当てする
- 19 たたんで折って — —
患部^{かんぶ}の痛みのあてものに
- 20 患者^{かんじや}の運搬^{うんぱん} — —
胸部^{きょうぶ}にかけて首運び
- 21 患者^{かんじや}の運搬^{うんぱん} — —
両手をくくり背で運ぶ
- 22 藪^{やぶ}の中から — —
消防救出^{しょうぼうきゅうしゅつ} 結び方
- 23 マスクに用う — —
火煙^{かえん}の中で身を守る
- 24 たくさんつないだ — —
暗中退避^{あんちゅうたいひ}の道標^{みちしるべ}に
- 25 輪にした八枚の — —
二本棒^{にほんぼう}にとおせば仮タンカ



35 アンノウンスカウト (Unknown Scout)

原曲 ドイツ曲

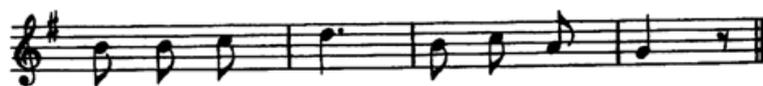
中村 知 編曲



アンノウンスカウト



きりのロンドンみちにまよえる



ミスターボイスたすけた

アメリカのボーイスカウト運動発展のきっかけとなった、ひとりのスカウト (R54の歌詞を参照) を記念して、1926年、アメリカのスカウトから、イギリスのスカウト連盟に、この野牛の像が贈られた。その台石には次の碑文が刻まれている。

“アメリカ合衆国にスカウト運動をもたらした日々の善行の実行に忠実なりし、名のおからぬスカウトに、これを贈る”

To the Unknown Scout Whose Faithfulness in the Performance of the 'Daily Good Turn' Brought the Scout Movement to the United States of America.

(歌詞は54頁)



36 天気予報

原曲 "Francis Ameg"

中村 知 作詞 編曲



もりのとりども いそがしく ゆうぐれおそく



えをあさり のべのくさの はよなかでも



ひのでのまえでも かわいてりゃ そのひは



あめだ ゆうやけこやけの にしのそら



あさざりあさもや つゆかかりゃ そのひは はれだ

天気予報

一 森の鳥ども忙がしく

夕暮おそく餌をあさり

野辺の草の葉夜中でも

日の出の前でもかわいてりゃ

その日は雨だ

夕焼けこ焼けの西の空

朝霧朝露かかりゃ

その日は晴れだ

二

山が近く見える時

月が傘をかぶる時

朝の虹がかかる時

星がきらきら光る時

雨ふるきざし

煙が東になびく時

煙がまっすぐ昇る時

天気なきざし

(歌詞は54頁)

アンノウンスカウト

一 アンノウンスカウト

霧きりのロンドン道みちに迷まよえる ミスターボイス 助けた

二 ボイスのおじさん お礼出したが

それをもらわず

名も告げず 立ち去った

三 ボイスのおじさん アメリカに帰り

これを伝え

ボイススカウト 始めた

四 それから十六年

アメリカのボイススカウト

百万の感謝かんしゃに 野牛やぎうの像しやう贈たまった五 ロンドンの郊外きやうがいギルウエルの森しんにこれを飾かざって 今いまに仰おほぐ アンノウンスカウト

(一九四九年四月十二日作)



天気予報 (前ページの続き)

三

魚いしが高くはねる時
水面すいめんにバタバタ浮ぶ時煙けむりが西にしになびく時鐘かねの音ねハッキリひびく時雨あめふるしるし茶ちやわんの飯粒いひつぶとれぬ時クモがせつせと巢くさをかけりや天気てんきのしるし

四

雲くもの羽根はね雲くも羊雲ひつじぐも
竜雲りゆうぐも笠雲かさぐも蝶々雲てつてつぐも黒雲東くろぐもの風かぜが出て蛙かえるがゲロゲロなき出せばまもなく雨あめだ空そらに綿雲わたぐも美しく高く青あおくすみわたりやお天気おてんきつづく

(一九四九年十二月五日作)

37 自紀の三訣

後藤新平 詞
中村知 作曲 補詞



ひとのおせわにならぬよう



ひとのおせわはするよう



そしてむくいをもとめぬよう



これがじーきのさんけつだ

自紀の三訣

一 「人のお世話にならぬよう

人のお世話はするよう

そしてむくいを求めぬよう」

これが自紀の三訣だ

二 この教えは 初代総長

後藤新平先生の

のこされたる おことばにて

これの実行が スカウティング

(一九四九年七月二十日作)

38 10種野営料理法

米 国 スカウト 曲

中村 知 作詞 編曲



1 み ずをおなべ - に はちぶ け づりかつぶし

いれてひを どんどどんと もせば(ヨウ!)ぐら - ぐら - と

にえる みそみそみそをとき ぐらぐらぐつららら

じゃがいも たま ねぎいれりや (アッ)おみおつ け

第1部

- 2 水をおなべに八分 おだしのふたを入れて
火をどんどどどーんともせば (ヨウ) ぐら - ぐら - と煮える
みそみそみそをとき ぐらぐらぐつららら
おきつをたき ねぎ入れりや (へー) きつま汁
- 3 水をおなべに八分 骨つきの肉入れて
火をどんどどどーんともせば (ヨウ) ぐら - ぐら - と煮える
じゃがいも たまねぎ入れて ぐらぐらぐつららら
塩気をつけ こしょうふれば (フォーム) ハンターズスチュー

39 ぼくら元気

原曲 "London Bridge"

中村 知 作詞 編曲



あ め に な っ た ど う し よ う



ど う し よ う ど う し よ う け さ は ぼ く が



と う ぼ ん だ お う マ イ は ん ち ょ う



- 4 肉をおなべでいため 塩で味をつけて
湯をだんだんましてたけば(ヨウ) ぐらーぐらーと煮える
じゃがいも たまねぎ入れて ぐらぐらぐつらららら
うどん粉とき カレ粉ませりゃ(エヘン) ライスカレー

第2部

- 5 なまにえのご飯どうする 番茶の茶^茶袋といっしょに
湯をだんだんましてとかし(ヨウ) ぐらーぐらーとたいて
お塩で味をつけ ぐらぐらぐつらららら
あっさりぱっとたきあげりゃ(ホイ) 茶めしがゆ
- 6 冷えた残飯どうする フライパンをぬくめ
油をとかしませて(イヨウ) ジリージリーと炒りて
お塩で味をつけ ごしごしかきませて
たまねぎ入れて いらあげりゃ(サア) チャーハンだ
- 7 こげたご飯どうする これをすてないで集め
火をどんどど一んともやし(ヨウ) お湯をさしてたいて
みそみそみそをとき ぐらぐらぐつらららら
あぶらげ切り ねぎ入れりゃ(ヘー) おぞうすい

第3部

- 8 あすはいよいよ^{翌日}撤^{ツケ}だ 残る食糧どうする
みな なんでもかんでもきざみ(ヨウ) 米にませてたけば
ごっちゃ ごっちゃ ごっちゃつちやつちや ぐらぐらぐつらららら
しょうゆをさし 火をひけば(オホン) 五目めし
- 9 きょうはいよいよ出発だ あまった食糧どうする
みな なんでもかんでもきざみ(ヨウ) 味をつけてたけば
ごっちゃ ごっちゃ ごつちやちやつちや ぐらぐらぐつらららら
ご飯にませて すまおしや(ハハア) ちらしずし
- 10 この昼めしで最後、いっさいがっさいたいらげん
みな なんでもかんでもきざみ(ヨウ) 水をさしてたけば
ごっちゃ ごっちゃ ごつちやつちやつちや ぐらぐらぐつらららら
塩あじつけて くずかけりゃ(コリヤ) 八宝菜^{八宝菜}

ほくら元氣（雨中の炊事法）

炊事当番スカウトと班長が対話風に

表情たっぷりで歌う

はじめ当番、泣き声。班長しかり声。

（当番）

一、雨になったどうしよう どうしよう どうしよう

今朝はほくらが当番だ おう マイ班長！

（班長）

雨になっても平気だ 平気だ 平気だ

雨はかえって愉快だ 火をたけ！

（当番）

二、まきがぬれてるどうしよう どうしよう どうしよう

まきがぬれてて火がつかぬ おう マイ班長！

（班長）

まきがぬれても何でもない 何でもない 何でもない

ぬれたところを削りとり シンを燃せ！

（当番）

三、マッチがぬれてるどうしよう どうしよう どうしよう

マッチがぬれてて火がつかぬ おう マイ班長！

（班長）

スベア（余分）があるから大丈夫 大丈夫 大丈夫

スベア（余分）がぬれたら一大事 飢え死に！

（当番）

四、風がきつくて火がつかぬ 火がつかぬ 火がつかぬ

風がきつくてすぐ消える おう マイ班長！

（班長）

バケツの中で火を作れ 火を作れ 火を作れ

バケツの中で燃えたら 火どこに入れ！

（当番）

五、やつとごはんができました できました できました

やつとお汁もできました おう マイ班長！

（班長）

食器を持って集まれ 集まれ 集まれ

雨がふってもこの通り（全員合囀）ほくらは元氣！

40 招くぞ 招くぞ

武生良樹 作詞

中村知 増詞 作曲



まねくぞ まねくぞ わかくさが



みどりの いーろも かぐわしく

三 招くぞ招くぞ 秋晴れが

小鳥の声もここかしこ

赤いもみじの 健児ら(スカウト)を

いざゆかん 山坂蹴って

登りつかん あの丘に

四 招くぞ招くぞ 銀嶺が

雪のけはいも うつくしく

けがれにそまぬ 健児ら(スカウト)を

いざゆかん 新雪蹴って

すべりつかん あのピーク

(一九三二年作)



さくらはなさくけんじらを
 (スカウト)
 いざゆかん ひろのをけて
 たどりつかん あのもりに

招くぞ招くぞ

一 招くぞ招くぞ 若草が

みどりの色もかくわしく

桜花咲く健児ら(スカウト)を

いざゆかん 広野を蹴って

たどりつかん あの森に

二 招くぞ招くぞ 青海が

うしおの光もなつかしく

元気な海の子 健児ら(スカウト)を

いざゆかん 白波蹴って

泳ぎつかん あのみさき



41 山 鳩

中村 知 作詞 作曲



そーらーはー あおぞーら わたぐーもーうか び



たーにーにー さらさーら せのおーとーきこ ゆ



ともと ふたり やまぢ をーゆけ ば



やまばと なーくーよ てるひーはーうら ら

山 鳩

一 空は青空 綿雲うかび

谷にさらさら 瀬の音きこゆ

友と二人 山路を行けば

山鳩啼くよ 照る日はうらら

二 山の夕ぐれ 静かにくれて

森は黒み 山はだ白し

友とふたり 谷間にくれば

清水はむせび 夕風かおる

三 森のやどり かがりの煙

立てしテントに 月影さして

友と二人 こよいのねぐら

星影キラキラ み空は近し

(一九三八年作)

42 つのぶえ

ROUND

中村 知 作詞



そとが しらみ そめた



あさの かぜに のせて



ホ ホホホ ホ ホ ホーンと



つ のぶ え き こゆ

つ
のぶえ(輪囀四部)一
そとが白みそめた

朝の風にのせて

ホホホホ

ホホホーンと

つ
のぶえひびく二
みんないっしょ 起きよう

朝の森は静か

ホホホホ

ホホホーンと

つ
のぶえなるよ

(一九二八年作)

43 テントの種類

原曲 親子井

中村知 作詞 編曲

ROUND



フオ レスター テン ト マウン テン テン ト



パ ッ プ テン ト ベー カー テン ト シェル ター

1. フォレスターテント, マウンテンテント, パップテント,
Forester tent, Mountain tent, Pup tent,
ベーカーテント, シェルター
Baker tent, Shelter,
2. パトロールテント, ウォールテント, ウエッジテント,
Patrol tent, Wall tent, Wedge tent,
リッジテント, マーキーズ
Ridge tent, Marquees.
3. クルーザーテント, トレイルテント, マイナーテント,
Cruiser tent, Trail tent, Miner tent,
ベルテント, リンツー
Bell tent, Lean-to,
4. センターポール, ガイライン, ランナー, ベッグ, マレット,
Center pole, Guyline, Runner, Peg, Mallet,
グラウンドシート, フライシート, ソドクロス
Ground sheet, Fly sheet, Sod cloth, (テントの部品)

(和名)

1. 木こりテント, 山岳テント, ハイクテント, ひさしテント, さしかけ
2. 班用テント, 壁付テント, 吊りテント, 屋根型テント, 大テント
3. 巡洋艦テント, 潜水艦テント, 方錐テント, 円錐テント, 枝小屋
4. 支柱, 主索, サル, 杭, 木づち, 下敷き, 二重屋根, すそ布

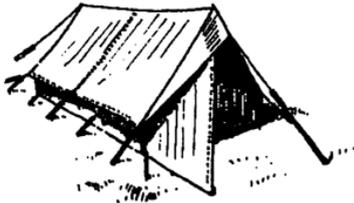
(1950年 作)



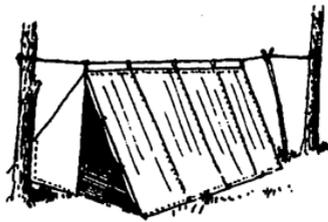
フォレスターテント



ベイカーテント



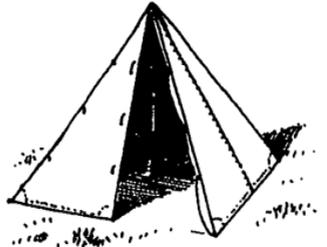
リッジ・ウィズ・ウォールテント



ウェッジテント(またはAテント)



ベルテント



マイナーテント

44 野営用具

ROUND

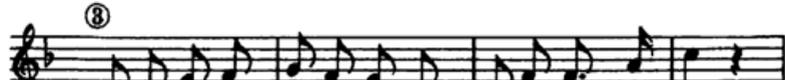
中村 知 作詞

①

 はんごうにおなべにフライパン

②

 バケツにたわしにおちやかん

③

 ほうちゅうまないたかねのざる

④

 りしゃく びしゃく めししゃく し

野営用具 (輪唱部または八部)

- 一 はんごうにおなべにフライパン
 バケツにたわしにお茶やかん
 ほうちゅうまないた金のざる
 汁しゃく水しゃく飯しゃくし
- 二 のこぎりくわ かまおのかなた
 ショベルにはりがね十字鍬
 砥石にやすりに油ひき
 ベンチかんきりきりと つち
- 三 雨具に毛布に洗面具
 ちり紙マツチにろうそく
 懐中電燈くつブラシ
 寝まき着替え防寒具
- 四 地図に磁石に信号旗
 ナイフにロープにホイッスル
 糸針筆記具測量具
 時計星図救急具

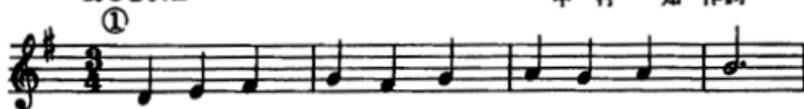
(一九四九年作)

45 設営・撤営

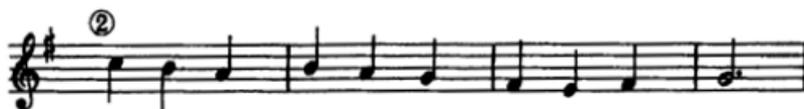
英國の曲

中村 知 作詞

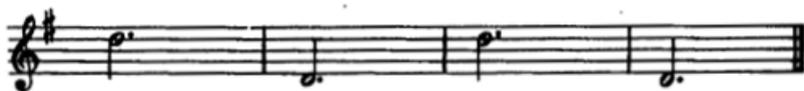
ROUND



ボ ー ル た て て い ち と り



よ す み は っ て く い う つ



コ ン コ ン コ ン コ ン

設営・撤営 (輪唱三部)

(設営)

- 一 ボール立てて位置とり 四隅張ってくい打つ コン、、、
- 三 屋根の縫い目見とおしくは一つ 線上に コン、、、
- 三 ぬれりやテント縮みかわきやテントゆるむ コン、、、
- 四 かわきやロープ引きしめぬれりやロープゆるめる コン、、、
- 五 綱にランナーなければトワトラインヒッチで結ぶ コン、、、
- 六 雨に備えみぞはり 傾斜つけて排水コン、、、
- 七 キャンプすれば穴二つ 便所 汚水汚物穴 コン、、、

(注意 かまど作りは穴をほるのは旧式である)

(撤営)

- 一 風にテント氷がせごみをとってたたむ トン、、、
- 二 くいの数(かず)を調べて千般(せんぱん)に悔(くや)みを残すな トン、、、
- 三 くいをこすり泥(ぬ)とりしんのしんまでかわかせ トン、、、
- 四 布(ぬ)にしめり残せばあとでテントかび染(かびぞ)め トン、、、
- 五 綱(つな)のしめりかわかせ シートの土(つち)をとりのけ トン、、、
- 六 穴(あな)はうめてよく踏み 工具(こうぐ)洗いかわかせ トン、、、
- 七 あとに何も残すな 感謝(かんしゃ)だけを残せ トン、、、

(一九四一年四月一日作)

46 野営の朝夕

武 生 良 樹 作 詞
中 村 知 作 曲

Con espressione

1. かがりび きえて しずかに ふける

2. あさひの ぼりて しずかに あける

たのしい な一つの みじかよ は

たのしい な一つの あさほら け

やえいの ゆめに むすばれ て

やえいの ゆめは さまされ て

rit

しずかに ふける しずかに ふける

しずかに あける しずかに あける

野営の朝夕 (三番)

一 かがり火消えて

静かに ふける

たのしい夏の 短夜は
夜営の夢に むすばれて

静かに ふける

静かに ふける

二 朝日のほりて

静かに あける

たのしい夏の 朝ぼらけ
野営の夢は さまされて

静かに あける

静かに あける

(一九三二年作)



47 野営第一日

原曲 "My Goose"

中村 知 作詞

ROUND



テントをはって べんじょつくーり



ながしば ほって ひとやすみ

野営第一日 (輪囀四部)

- 一 テントを張って 便所作り 流し場掘って 一休み
- 二 水をくんで お米洗い まきをとって 一休み
- 三 かまと作り ごはんをたき おかず作って 一休み
- 四 枝をとって 食卓組み 食器だなあんで 一休み
- 五 テントの中 寝床作り せいとんして 一休み
- 六 小屋作り たきぎを入れ 側溝掘って 一休み
- 七 そうじをして 手を洗い 夕食たべて 一休み
- 八 食器洗い 営火の用意 役割きめて 一休み
- 九 営火すみ 点検用意 テントにはいり 一休み
- 十日 記を書き 寝床にはいり 消燈して グッドナイト

(一九四八年五月七日作)

48 野営スケッチ

原曲 "Three Old Mice"

中村 知 作詞 編曲

ROUND



あ め だ あ め だ



ふ っ て き た ふ っ て き た



グ ラ ン ド シ ー ツ と り い れ も - - ふ - を な げ い れ



せ ん た く も - の ほ う り こ ん だ ら は れ た

野営スケッチ

(四部輪唱)

一
雨だ 雨だ

降ったね 降ってきた

グラウンドシートとり入れ

毛布を投げ入れ

せんたくものほうりこんだら

晴れた

二
晴れた 晴れた

照ってきた 照ってきた

せんたくものとり出し

毛布を投げ出し

グラウンドシートほうり出したら

雨だ雨だ

(一九二二年二月二十一日作)

49 新米炊事

外国の曲

中村 知 作詞

ROUND



しんまい スカウト すいじばん



はんごうに みずを - いれすぎて グ



ラ グ ラ グ ラ グ ラ グ ラ

七 ひつくりかえせば 飯になる
 六 どつと流れる熱い汁
 五 ふたをばとって 中をみりや
 四 おなかはすくし 日は暮れる
 三 あわててたいもふくばかり
 二 いたまでたいも ママならぬ
 一 新米スカウト炊事番
 はんごうに水を入れすぎて
 グラグラグラグラグラ
 はんごうはあわをふくばかり
 グラグラグラグラグラ
 たきぎはなくなる こりやいかん
 グラグラグラグラグラ
 おなかはすくし 日は暮れる
 それでも飯はまだできぬ
 グラグラグラグラグラ
 ふたをばとって 中をみりや
 ぞうすい(雑炊)まがいの米スープ
 グラグラグラグラグラ
 はんごうおろし ひつくりかえしや
 どつと流れる熱い汁
 グラグラグラグラグラ
 それでもはんごうはよいものだ
 ひつくりかえせば 飯になる
 グラグラグラグラグラ

新米炊事(輪唱三部)

50 モスキートセレナーデ

米国スカウト曲

中村 知 作詞

Andantino



ムーンムーンムーンブンよせ くるかのたいぐん



ムーンムーンムーンブンやぶ からこみぞから パン

モスキート・セレナーデ

一 ムーン ムーン ムーン ブン

よせくる蚊の大軍

ムーン ムーン ムーン ブン

やぶから 小みぞから

二 ムーン ムーン ムーン ブン

すさまじ蚊の大軍

ムーン ムーン ムーン ブン

こうなりや ひと勝負

三 ムーン ムーン ムーン ブン

ひざっこさしてるなあ

ムーン ムーン ムーン ブン

このやつおほえてろ パン

(一九三九年作)

51 キャンピング グーグー

原曲 Yankee Doodle

中村 知 作詞 編曲



しゅうでんで おり たのは スカウトじゃ ないか



げんきな すが たで くちぶえ ふいて



ピッピピピ ピッピピピ ピッピピピ ピピピ



くつおと あわせて キャンプ ちへ いった

ザク

ザク

ザク

ザク



キャンピング グーグー

一 終点でおいたのは スカウトじゃないか

元気な姿で口ぶえふいて

ビビビビビ ビビビビ ビビビビビ ビビビ

くつ音あわせてキャンピング地へ行った

(ザク ザク ザク ザク)

二 せなかにしよったのは テントじゃないか

食糧 寝具に炊事具 工具

エンヤコリヤ ドッコイシヨダ

ガツキャンコットン カーンコーン

(ザク ザク ザク ザク ザク)

三 森に張ったのは フライじゃないか

早くも昇る 炊事のけむり

ゆらゆらゆら ホーパチ シュウシュウ

みそ汁にえたち グラグラクーラ

(ファン ファン ファン ファン)

四 静かになったのは 食事じゃないか

煮えるも早い 食べるも早い

ムツシャムムツシャ モリモリ モリモリ ムツシャ

いずれおとらぬ 大食漢 カン

(モリモリ モリモリ)

五 かがり火囲むは 営火じゃないか

キャンピングファイヤの そのにぎやかさ

ウンパウンパ ウンパウンパ ホーパチホー

歌は高鳴る ほのおはどる

(ウンパ ウンパ ウンパ ウンパ)

六 山に鳴くのは ふくろうじゃないか

谷にひびくは 清水の音

ホッホホホ ホッホホ ジャー ジャー ジャー

テントの中は はやグーグー

(ホーホーホーホー)

(一九二四年作 一九四七年 改作)

52 友を憶う

The Balls of Scotland

中村 知 作詞 編曲



お も い で の や ま - な つ か し き あ



り し ひ の と も - い ま い ず こ きよ



う こ の も り に ま た き て み れ ば ふ -



る す に し げ る - し の ぶ く さ

友を憶う

一 思い出の山をつかしき

ありし日の友今いずこ

きようこの山にまたきてみれば

古巣ふるすに茂る忍しのぶふ草

二 思い出の森をつかしき

ありし日の友今いずこ

清き泉はなお、わき出でて

くめどもつきぬおもいかな

三 思い出の川をつかしき

ありし日の友今いずこ

川原かわらに咲けるあの月見草つきみくさ菅火すがひのあとぞしのばるる

(一九四八年七月十七日作)

53 おのの響き

中村 知 作詞 作曲

① ROUND

お の の ひ び き

②

コ コ コ コ コ コ

③

も り に た に に

④

コ コ コ コ コ コ

おのの響き（四部輪唱）

一 おののひびき
コココ
コココ

森に谷に
コココ
コココ

二 風のひびき
サササ
サササ

森に谷に
サササ
サササ

三 水のひびき
ザザザ
ザザザ

森に谷に
ザザザ
ザザザ

（一九二八年作）

54 さくら

英国スカウト曲(Rose)

中村 知 作詞

① ROUND

さくら さくら

②

みやまの さくら

③

とうひとなきに

④

さきにおう

さくら (田部輪唱)

一 さくら さくら

深山みやまのさくら訪まう人なきに咲さきにおう

二 さくら さくら

ひとつとさくら

花と咲きて

おごらず

三 さくら さくら

おおしきさくら

花と散りて

おします

(一九三五年作)

55 古 巢

米 国 スカウト 曲

中 村 知 作 詞

① ROUND

かん て ん ご や み え た

②

な つ か し の や え い ち

③

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ふ る す

古 巢 (三部合唱)

一 寒天小庵見えた

なつかしの野营地
ララララ ララララ 古巢

二 逆瀬川見えた

なつかしの野营地
ララララ ララララ 古巢

三 奥池見えた

なつかしの野营地
ララララ ララララ 古巢

四 三本マスト見えた

なつかしの野营地
ララララ ララララ 古巢

(一九三〇年作)

56 水無月

英国スカウト曲

中村 知 作詞



た ち ば な の し ろ い は な



ほ の か に に お う み な づ き よ

水無月

(二部または四部輪唱)

- 一 たちばなの白い花 ほのかににおう 水無月よ
- 二 梅の実の青々と たわわにみゆる 水無月よ
- 三 蟬しぐれ朝山にひときわ高い 水無月よ
- 四 山ゆりの花むらにむら蜂うなる 水無月よ
- 五 さみだれのうすあかり 森さみどりの 水無月よ
- 六 水ませる池のものに アメンボ泳ぐ 水無月よ
- 七 柿若葉日に照って アリ木に登る 水無月よ
- 八 夕立の前ぶれかかえる鳴きだす 水無月よ
- 九 苗しろに風そよぎ ホタルはるかに 水無月よ
- 十 夕やみのひとときを 静かにいこう 水無月よ

57 森の神

英国スカウト曲

中村知 作詞

① ROUND

も り の か み

②

よ も す が ら わ れ ら を

③

ま も り た む

森の神 (三部輪唱)

一 森の神 夜もすがら

われらを 守りたもう

二 かがり火の きよき火を

われらは ささげなん

三 この森に 生きるもの

われらと 眠らなん

四 森の神 安らかに

われらを 守りたもう

(一九三二年三月二十八日作)

58 あらし

英国スカウト曲

中村 知 作詞

① ROUND

や ま に な る か ぜ

②

ゴウ み るまに くろくもたれ

③

た あ ら し だ

あらし

(三部輪唱)

一 山に鳴る風 ゴウ

見るまに黒雲たれた

あらしだ!

二 谷に鳴る風 ゴウ

見るまに白霧こめた

あらしだ!

三 森に鳴る風 ゴウ

見るまに大粒雨だ

あらしだ!

(一九三〇年三月二十八日作)

59 か え る

米國スカウト曲

中村 知 作詞



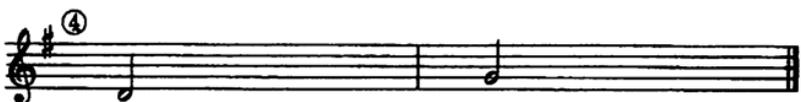
か え る の う た が



あ の い け に



クリック クリック クリ クリ クリ クリ



プー

ルム

か え る (四部唱)

一 かえるの歌が あの池に

クリック クリック

クリクリクリクリ プールム

二 かえるの歌は おもしろい

クリック クリック

クリクリクリクリ プールム

三 かえるはいつまで 歌うだろう

クリック クリック

クリクリクリクリ プールム

四 かえるは晩まで 歌うだろう

クリック クリック

クリクリクリクリ プールム

五 かえるはいつごろ かえるだろう

クリック クリック

クリクリクリクリ プールム

(一九三〇年五月二十一日作)

60 湖畔の朝

原曲 "Good Night"

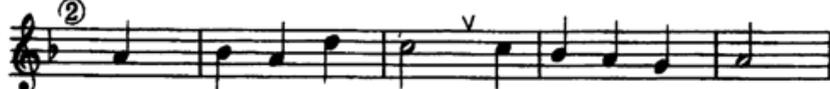
中村 知 作詞

① ROUND



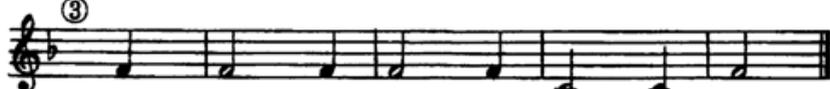
し ず かな る み ず う み の

②



あ さ も や の ふ か み ど り

③



あ さ や か に は れ て

湖畔はなの朝

(三部輪唱)

一 静かなる湖の

朝もやの深みどり

あさやかに晴れて

二 かなたなる湖の

岸のへの森のかけに

白いテントひとつ

三 さざ波の湖に

こだまするおのの音

コ、コッコ、コッコとひびく

四 朝日さす湖に

水鳥の立つ羽音

野営やえいのけむりなびく

(一九四八年七月十八日作)

61 晚 鐘

原曲 "Lovely Evening"

中 村 知 作 詞



あ ち ら の や ま に も も り に も
こ ち ら の や ま に も も り に も



こ ち ら の た に に も さ と に も
あ ち ら の た に に も さ と に も



ゴーン ゴーン ゴーン ゴーン ゴーン ゴーン
ゴーン ゴーン ゴーン ゴーン ゴーン ゴーン

晚ばん鐘かね

(三部輪唱)

一 あちらの山にも

森にも

こちらの谷にも

里にも

ゴーン ゴーン

ゴーン ゴーン

二 こちらの山にも

森にも

あちらの谷にも

里にも

ゴーン ゴーン

ゴーン ゴーン

(一九四八年七月十八日作)

62 ほのおの幻想

Tenderly

中村 知 作詞



ほ の お の な か に む か



し す み し せ ん そ の



す が た が う か び で る -

ほのおの幻想

一 ほのおの中に昔住みし

先祖の姿がうかび出る

二 ほのおはふしき笑い歌い

昔を語っておどり出す

三 ほのおはきれいやみをてらし

けがれを焼いて光ってる

四 ほのおはかおる母のにおい

くりやの煙がなつかしい

(一九五〇年十二月十三日作)

63 冬のまどい

中野忠八 作詞

中村 知 作曲



そ と に は さ ー け ぶ か ぜ の こ え



ピュツ ピュウ ピュウ ピュツ と き こ ゆ る も



わ れ ら の さ ち は あ た た か き



こ こ ろ の と も と ま ど い し て



か た り あ う な る こ の ゆ う べ

冬のまどい

一 そとには叫ぶ風の声

ピュツピュウピュウピュツと

きこゆるも

われらの幸はあたたかき

心の友とまどいして

語りあうなるこの夕べ

二 まどの戸たたく玉あられ

ザッザッザッザッ

きこゆるも

われらの幸はあたたかき

心の友とまどいして

たのしく遊ぶこの夕べ

三 つどいのはててあくる戸の

かどべは清く白雪の

つもるもきようはあたたかき

心わが身の内にあり

心わが身にそいてあり

(一九四九年一月十九日作)

年長スカウトの歌



64 年長隊富士野営の歌

中村 知 作詞 作曲



と き は ま な つ こ こ は



ひ ゅ う こう い っ せん メ - ター



れ い ほう て ん に そ び え



ご ご そ の か げ う つ す



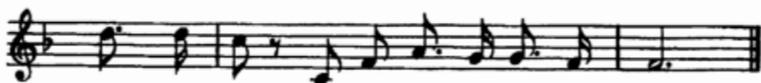
こ の ち わ れ ら の メ ッ カ



あ こ が れ の や ま な か こ



み ず に や ま に き た えん



ね ん ちやう た い ふ じ や え い

年長隊富士野営の歌

一 時は真夏ここは

標高一千メートル

靈峰天にそびえ

五湖その影うつす

この地われらのメッカ

あこがれの山中湖

水に山にきたえん

年長隊富士野営

二 カラマツの樹海

黒き火山礫の

林道行けば

鳥の歌うその声静か

アザミ茂る丘に

のぼる野営の煙

友よおのをふるえ

われらやぐらを組まん

三 すそ野長くのびて

雄大にしてはるか

南アルプス連峰

かなた雲間にうかぶ

されど狭霧わけば

冷雨まじりてめぐる

この気象こそは

まこと野営の試練

四 ここにつどうわれら

すべて一千有余

精銳そろいきそう

天下のスカウト仲間

あした富士を仰ぎ

夕べ湖畔に歌い

語りあいし六日

長く心に宿らん

(一九五五年七月作)



65 玉ちる汗

アウグストクレンザー作曲
中村知作詞



く るまを ヤ エイコラ そら エンヤ ラ



ヤ ち からを あ わせて みな お せ



よ さ か み ち だ ぞ さ が ー な お



し ー ま く れ ソ ラ ひ と お お し だ ぞ た あ



ま ち る あ せ に こ そ わ れ ら い き る
せ ち ふ く あ と に こ そ こ ろ す ず し

玉ちる汗

一 車をヤエイコラ

そらエンヤラヤ

力を合わせて皆おせよ

坂道だぞさがるな

押しまくれ

ソラひと押しだぞ

玉ちる汗にこそ

われら生きる

汗ふくあとにこそ心涼し

二 円匙(シヨベル)をにないて

いざ進め足なみ合わせて

皆勇め

大空は雲もなく晴れわたる

行けわれらの大地

玉ちる汗にこそ

われら生きる

汗ふくあとにこそ心涼し

(一九三九年九月作)

66 シースカウト

英国スカウト曲
中村 知 作詞

① ROUND

こ ち ふ く も

② わ れ ら お そ れ ず

③ し お さ い も

④ わ れ ら ひ る ま ず

⑤ と り か じ

シースカウト(五部輪唱)

一 東風吹くも

われら恐れず

潮騒も

われらひるます

「とり舵！」

二 西風吹くも

われらひるます

疾風にも

われらあわてず

「おも舵！」

三 総帆に

東北風うけて

南十字

星をめでてに

「よう そろ！」

(一九三〇年六月三十日作)

67 こだま

米国スカウト曲

中村知 作詞

Allegretto



た かい やまな - み みねをつら ね



みそらに た ち ふ かい たにだ - に その



そ こ の す - ご - さ よ オウ オウ



ヤッホ ヤッホ た に に こだ ま ひびく よ

こ
だ
ま一 高い山脈^{たかいさんみづ}峰^{たかね}をつらねみ空^{みそら}に立ち 深い谷々^{ふかいや}その底^{そこ}のすごさよ

オウオウ

ヤッホヤッホ

谷^やにこだま

ひびくよ

二 深い谷々^{ふかいや}底^{そこ}も見えぬ黒みし森^{くろみし} 高い山脈^{たかいさんみづ}その高き雲^{たかきぐも}に入る

オウオウ

ヤッホヤッホ

山^{やま}にこだま

ひびくよ

(一八四七年十一月二十三日作)

68 移動野営

中村 知 作詞 作曲



みどりなせる もりゆけば わかきおいき



しげりあい はやしをつらぬくひとすじの



しろきみちは ひにてりて いづみはきよく わきいづる



ここに こよい いちやのや どりむすばん

移動野営

一、みどりなせる森行けば

若木 老木 茂りあい

林をつらぬく ひとすじの

白き道は 陽に照りて

泉は清く わき出づる

ここに今宵

一夜のやどり 結ばん

二、みどりなせる山行けば

高き低き むらだてる

山なみつらねる ひとすじの

白き道は かがやきて

谷水 岩にむせび鳴る

ここに今宵

一夜のやどり 結ばん

(一九四九年九月九日作)

69 全夜ハイク

武生良樹 合作詞
 中村 知
 中村 知 作曲



70 スカウト車

米国スカウト曲

中村 知 作詞



(歌詞は98頁)

全夜ハイク

一 キキキキ キキキキ

鳥の音 おもしろく 夕風そよぎて

暮れゆく森の 木々の中

こずえ見つめて われらは行く

鳥啼く山路を われらは行く

二 ザクザクザクザク ザクザクザクザク

くつ音勇ましく 足なみそろえて

ふけゆく夜の霧の中

やみを見つめて われらは行く

淋しき山路を われらは行く

三 ザザザザ ザザザザ

谷水 音高く 山ぎわ白みて

明けゆく朝の 森の中

光見つめて われらは行く

さびしき山路を われらは行く

(一九三二年十一月作)

スカウト車

一 ソラエンヤラエンヤラ

ソラ押せエンヤラエンヤラ車を

ソラしっかりしっかり力を入れて

ヨイシヨイシヨと

登りだ がんばれよのりきれこの坂を

登りやもうすぐだ

ソラ ヨイシヨイシヨと(ピッピ)

ソラ ヨイシヨイシヨと

二 ソラエンヤラエンヤラ

ソラ曳けエンヤラエンヤラ車を

ソラしっかりしっかり足もとふんばり

ヨイシヨイシヨと

下りだ がんばれよタダタツと落すなよ

下りやもうすぐだ

ソラ ヨイシヨイシヨと(ピッピ)

ソラ ヨイシヨイシヨと

(一九四七年二月二日作)

71 夜の祈り

原曲 フランス歌曲

中村 知 作詞 編曲

か が り び - き - え - た り
い と も よ は ふ - け - た り

と も よ い ぎ ね - む - ら ん -
と も よ い ぎ い - の - ら ん -

た の し く - わ れ は ひ - と ひ
あ め つ ち - わ れ を ま - も り

い き ぬ た だ - し く - あ す も ひ - と ひ
た ま い あ す ま た - ち か ら め - ぐ み

お く - り な ん
た ま - え か し い や さ か

夜の祈り

一 かがり火消えたり
友よ いざねむらん
たのしく われは
ひと日 生きぬ
正しく あすも
ひと日 おくりなん

二 いとも夜はふけたり
友よ いざ祈らん
あめつち われを
守り給え
あす また
恵みたまえかし

(一九四七年作)

72 壮 図

中村 知 作詞 作曲



おおぞら ひろく のぞみ はとおく



その ちからに みてる あしおとたかし



のを こえやま こえてそのみをきたえ



かの みとうの てんいち いざや ひらかん

壮 図

一 大空ひろく 望みは遠く

その力にみてる 足音たかし

野を越え 山こえて

その身をきたえ

かの未踏の天地 いざ拓かん

二 ちかいとおきて われらのいのち

その力にみてる 足音つよし

海こえ 川こえて

心をきよめ

かの光りの大地 いざ打ち建てん

(一九二六年作曲 一九四七年作詞)

73 パイオニアの夢

エリック・ハインリッヒ作曲

中村知作詞



ちへーいせんのかなーたは



るかにかすむくにぼらま



だしらぬそのやまかわ



われらゆきてひらかん

パイオニアの夢

一 地平線のかなた

はるかに かつむ国原

まだ知らぬ その山川

われら行きて 開かん

二 水平線のかなた

はるかに けぶる 潮路

あこがれの あの島山

われら行きて 拓かん

(一九四七年十一月八日作)

75 富士スカウトめざして

中村 知 作詞 作曲



すすめ すすめ ふじをめざして



きたえ しんしん たゆみなく こん



じょう こんじょう のぼれよ ふじスカウトに

富士スカウトめざして

一 進め進め

「富士」をめざして

きたえよ心身 たゆみなく

根性根性

登れよ富士スカウトに

二 登れ登れ

「富士」山頂に

「菊」筆は五合目か

六根清浄

御来迎 富士スカウトに

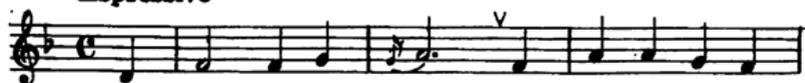
(一九五四年作曲 一九六七年作詞)

ローバースカウトの歌



76 ローバーリングの歌

石川 浩 作詞
中村 知 作曲

Espressivo

スカウトーの みちはなを



とおしロバースカウトの わがともがら



よちかいとおきてをまもり



ていざへんれきーのた



びにのほーらなんわれらだ



いちのむねのうえをあゆむハ

イ ----- カ ま な つ の た い よ う
 き ぼ う の ゆ く て に か が - や く

ローバーリングの歌

一 スカウトの道はなお遠し

ローバースカウトのわがともがらよ

ちかいとおきてを守りて

いざいざ遍歴へんれきの旅にのぼらなん

われら大地の胸の上をあゆむハイカー

ま夏の太陽希望の行手に 輝く

二 成功への道ここにあり

ローバースカウトのわがともがらよ

B-P 卿の教えを守りて

いざいざ遍歴へんれきの旅にのぼらなん

われら森のふところになむるキャンパー

夜の静けさ青春の夢を 守る

(一九五六年作)



77 心の灯

吉川 哲雄 作詞

中村 知 作曲

Con espressione



こ な - ゆ - - き は ら は - - - ら ま



ど - に ま - い や ま の や ど り - の ふ



ゆ の よ - - は あ か き ほ だ - び に み い り け -



り は な ち る こ ろ の わ び し さ を ち ま た に み た り



や ま こ い し お も い で の み は き よ く し て

心の灯。

一 心を雪はらはらと窓に舞い

山のやどりの冬の夜は

赤きほだ火に見入りけり

花散る唄のわびしさを

ちまたに見たり山恋し

思い出のみは清くして

二 心の友よ星の夜の

ほかげに映えしけだかさに

また会う日をば思うかな

ああ山に見し友だちの

心の灯をば人の世の

ひかりと永遠に拂げなん

(一九五二年十二月十日作)

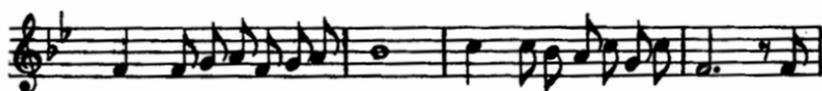
78 月下の営火

英国スカウト曲

中村 知 作詞

Allegro vivace
ma non troppo

こよいこのもりに たのしきまどいせん



もえよかがりびょうたえはらからよあ



あこのよい ああこのよい - つききよし

月下の営火

一 今宵この森に

たのしきまどいせん

もえよかがり火よ

歌えはらからよ

ああこの宵

ああこの宵 月清し

二 心ひとつ

たのしきまどいせん

もえよかがり火よ

歌えはらからよ

ああこの宵

ああこの宵 月清し

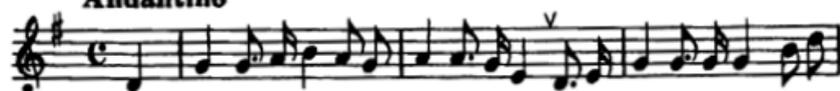
(一九二九年秋作)



79 別れの営火

スコットランドの曲
中村 知 作詞 編曲

Andantino



よ ごとにたきし かがりび こよ いさいご のえ
い くよをここに やどりて こよ いわかれ のえ



い か と も - よ こ の せい や - を い ざ
い か と も - よ こ の ひ と よ - を い ざ



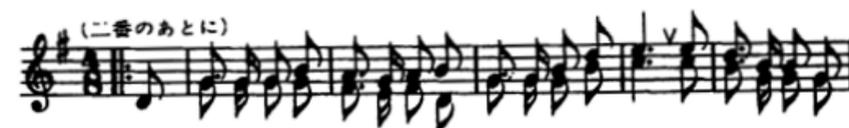
たの - し く う た わ ん } お - う も や せ も や せ
たの - し く か た ら ん }



か が り び こ こ ろ - ゆ く ば - か り な



ご - り の え い - か - ぞ お も い で - の え い - か ぞ



い ま と い う い ま - は ふ た た び な く お な じ え い
こ よ い の え い か は い ま は て て も つ き せ ぬ お



かーも ふ た た び な し こ よ い の え い か は こ
も い て む ね に ひ め て さ ら ば わ が と も す



よ い か ぎ り お し く も こ の よ に ふ た た び な し
え か け ー て お な ー じ み ち ー に さ き く ま ー せ

別れの営火

一

夜ごとにたきしかがり火
今宵最後の営火

友よ この静夜を

いざなのしく歌わん

(おーおう)

もやせ もやせ かがり火

心ゆくばかり

名残りの営火ぞ

思い出の営火ぞ

二

幾夜をここに宿りて

今宵わかれの営火

友よ このひと夜を

いざなのしく踏らん

(おーおう)

もやせ もやせ かがり火

心ゆくばかり

名残りの営火ぞ

思い出の営火ぞ

(4/8にて……ゆっくり二部合唱)

今という今は 再びなく

同じ営火も 再びなし

今宵の営火は 今宵限り

惜しくもこの世に 再びなし

(2/8にて……アクセントをつけ、

テンポ早めて)

今宵の営火は 今果てても

つきせぬ思い出 胸に秘めて

さらばわが友 末かけて

同じ道に 幸くませ

(一九四八年十二月二十六日作)

世界友好
笑歌！
行進歌



80 再建のスカウト

中村 知 作詞 作曲



たてにほんのボーイスカウト やとせのせんらんはれ



へいわのあさかせふき そこくのさんがにいま



つのおえひびく かえれふるすになつかしき



ネッカーチーフ あらたにかけてスカウトサイン たかくあげ



つどいきたれ われらスカウト たの



しきなかま こころきよーくみ はすこやか み つのちーかいじや



にのおきて わが ゆくて にひかりあり



ああよ のさきが けたのもしくひかろうよ



再建のスカウト

たて！日本のボーイスカウト

八年の戦雲暗れ 平和の朝風吹き

祖国の山河に今 角笛ひびく

帰れ古巢になつかしき

ネッカチーフ あらたにかけて

スカウトサイン 高くあげ つどい来たれ

われらのスカウトたのしき仲間

心清く 身はすこやか

三つのちかい 十二のおきて

わが行く手に光あり

ああ世のさきがけ 頼もしく光ろうよ

ああ世のさきがけたのもしくひかろうよ

(一九四八年作)

81 行こう日本ジャンボリー

中村 知 作詞 作曲



リュウクは おも—い—があし なみはかるいざわ に

ことしの ハイ—ライトおお さいしよのこっほん^{ジャンボ}リ なつ

よ はやく ああまちどおしい きょう も みんな ちづをみつめて



てん に ひ を—ふ—くあ の あさまのやますそ に



ゆ め—は し な のじ—の ララ さんやをかけめぐ る



行こう日本ジャンボリー



(待望)

一 リュックは重いが

足なみは軽井沢に

今年のハイライト

おお 最初の日本ジャンボリー

夏よ早く ああ待ち遠しい

きょうも みんな 地図を見つめて(へイ)

天に火をふく あの浅間の山すそに

夢は信濃路の

ララ 山野を駆けめぐる

(出発)

二 リュックは重いが

足なみは軽井沢に

今年のハイライト

おお 最初の日本ジャンボリー

行こう 行こう ああその日はきた

さあ みんな準備はよいか(へイ)

天に火をふく あの浅間の山すそに

一万スカウトの

見よかがやく日本ジャンボリー

(到着)

三 列車は来る来る

ぞくぞくと軽井沢に

上り下りの

ああ ホームはスカウトでいっぱい

君も来たか よう ぼうも来たよ

かたい握手 血潮は通う(ホイ)

天に火をふく あの浅間の山を見な

けさは煙が

ホラ三筋のスカウトサイン

(一九五六年一月作)

82 スカ天狗の世界漫遊記

英 国 民 謡 曲

中 村 知 作 詞



ス カ てん ぐ の ま ん ゆ う き



き みょう きて れ つ ち ん む る い

- 七 そのお次ぎはどこでしょう
冬が暑くて汗かいて
- 八 そのお次ぎはどこでしょう
カンガルーをつれあるき
- 九 そのお次ぎはどこでしょう
金と銀の鞍おいて
- 十 そのお次ぎはどこでしょう
山猫におそわれて
- 十一 そのお次ぎはどこでしょう
火喰鳥に水のませ
- 十二 そのお次ぎはどこでしょう
エスキモーに招かれて
- 十三 そのお次ぎはどこでしょう
アイス熊もらったが
- 十四 そのお次ぎはどこでしょう
紳士たちが出迎えた
- 十五 さて終わりどうなった
大氷山にはさまれて(アナイ)

- セイロンへ行ったとき
象の鼻から水あびた
- 漳州へ行ったとき
ハンドバックの代りした
- アラビアへ行ったとき
乗ったラクダはらくだった
- メキシコへ行ったとき
サボテンぬいて戦った
- 南亞へ行ったとき
腹やぶって風呂たいた
- アラスカへ行ったとき
肝油のまされゲロはいた
- アイスランドへ行ったとき
帰る途中でみなとけた
- 南極へ行ったとき
よく見たらペンギンだ
- 北極へ行ったとき
「オットセイ」と助かった



こ ん な う た は ほ か に な い



で は こ れ か ら は じ め ま し ょ う

スカ天狗の世界漫遊記

序 スカ天狗の漫遊記 奇妙 奇天烈 珍無類

こんな歌はほかにない ではこれからはじめましょう。

一 まず最初はどこでしよう (サテ)
アリラン峠で風邪ひいて (ソレ)

朝鮮へ行ったとき (ファン)
三十八度の熱出した (ー) ち

二 そのお次ぎはどこでしよう
大砂漠にうずもれて
蒙古へ行ったとき

次のあらしではい出した

三 そのお次ぎはどこでしよう
そりの笛の凍ったのが

シベリヤに行ったとき
春になつたらなり出した

四 そのお次ぎはどこでしよう
ゴム林にしのびこみ

マラヤに行ったとき
枝ひっぱつたが伸びなんだ

五 そのお次ぎはどこでしよう
大ありをしほつたが

ジャワへ行ったとき
あまい砂糖はとれなんだ

六 そのお次ぎはどこでしよう
吸がらをすてまわり

スマトラへ行ったとき
石油出んかと試験した

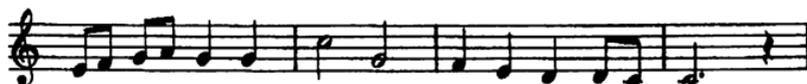
83 ボーイスカウト大行進曲

原曲 ヘンデル

中村 知 作詞 編曲



ボー イ ス カウ ト たい い ん た る も の は



めい よ に かけ て ち か う さ ん じ ゅ う の じ つ こ う を



か み と け と } く に と に ま こ と を つ く し お き て を ま も り ま す



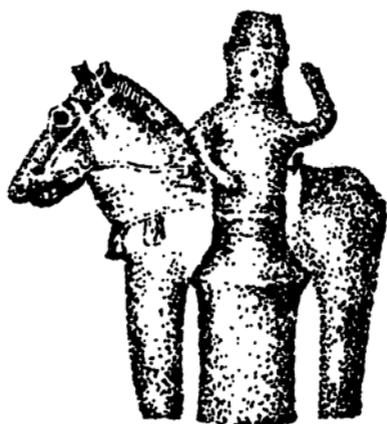
い つ も 一 た の ひ と び と を た す け ま す

- 1 ボーイスカウト隊員たる者は
若者にかけてちかう三条の実行を
「神(仏)国と誠を尽し提を守ります
いつも他の人々を援けます
- 2 体を強くし 心も謹かに
徳を養います」とちかいたつ
ひとたびこの誓いをばたてたなら
いつでも どこでも 生スカウトだ
- 3 ボーイスカウト隊員たる者は
「誠実である 忍耐をつくす
人の力になる 発憤に厚い
礼儀正しい 親切である 従順である
快活である 質素である

- 4 勇敢である 純潔である
つつしみ深い」の十二の提を守る
「あるべきところ」を ちかいで示し
「あらしめる」道をおきてとして
日々 実行はげむ
- 5 ボーイスカウト隊員たる者は
「そなえよつねに」の標語を忘れない
いかなる時いかなる所いかなる場合
いかなる事にも 役に立つ
- 6 ボーイスカウト隊員たる者は
「日々の善行」きつと守る
「人のお世話にならぬよう
お世話はするよう
そして 報いを求めぬよう」に

- 7 ボーイスカウト隊員たる者は
世界に通じる同士のサインあり
三指をあげて合図せば 彼もまた
三指をあげてこたえる信義のしるし
- 8 君もスカウトか 僕もスカウトだ
言葉はちがいがい 国は異なるも
たがいに兄弟助けあい 磨きあい
仲よくともにあゆむB-Pの道
- 9 平和の序候 ボーイスカウト
光の路を拓くパイオニア
あとから続く後継者を導くために
針路の舵とるパイロット
- 10 ボーイスカウト時にはフロンティア
むかしの防人の心意気
時間と財と労力をばみずから擲け
進んで奉仕するボランティア
- 11 ボーイスカウトは少年探険家
野に臥し山に伏す修験の行者
ハイクにキャンプに風に雨に
心身きたえ 口笛ふいて
菌香を吹きとばす
- 12 道跡 方位 結索 縛材法
信号 許割 焚垂 森林作業
自然の観察 救急法 人命救助法
水泳 架橋 開拓その他のプロジェクト
- 13 班別制度 進級制度 技能章制度
表彰 織りまぜて
小学五年から十年間の随時作業
あらゆるチャンスを活かす一大ゲーム
- 14 仮入隊から初級スカウト
進んで2級スカウト 1級スカウト
菊、華、富士クラスの年長スカウト
青年スカウト そしてリーダーとなる
- 15 小学三年からのカブスカウトがある
二年の終わりからリスがすんでから
学年別に
ウサギ シカ クマと進む
仲よしのゲーム 船の制敵スマートだ
船の制敵スマートだ
海洋訓練 航空訓練
- 16 年長隊富士野営
日本ジャンボリー
国際ジャンボリー
カブラリー 世界ジャンボリー
一九七一年 日本でひらかれる
- 17 ロード ベーデン パウエル
われらのチーフ
一九〇七年 ブラウン海島で
はじめてキャンプし 自信を得て
書いた本が あの有名な
"スカウティング・フォア・ボーイズ"
- 18 少年たち この本読んで
「これはおもしろいやってみよう」
と班をつくった それから
大人の隊長さがして隊をつくり
たちまち全世界にひろまった
- 19 少年による 少年のための
少年が作った 珍しい大組織
すべては自発活動であって
大人のものでない
大人はただこれを助けるだけだ
- 20 "よいことするんだ
みんな寄っといで"
つづけ兄弟とどどん無限につづけ
世界を結ぶ平和の行進 BS大行進
終わりのない BS大行進!

付 万葉集から



84 一 つ 松

市 原 王 作歌
中 村 知 作曲



ひとつま つ いくよか へぬる ふくかぜ



の こえの すめるは とし ふかみかも

一
つ
松

一
つ
松

幾代か 歴ぬる

吹く風の

声の清めるは

年深みかも

(一九四五年十月三日)



85 ここにして

石上 柳 作歌
中村 知 作曲

Andante *Accel*

ここに して いえ やも いずく

rit *Accel* *ral*

しらくもの たなびく やまを

rall *rit*

こえて きに けり

ここに
して

此処こゝにして

家やもいずく

白雲の

たなびく山を

越えて来にけり

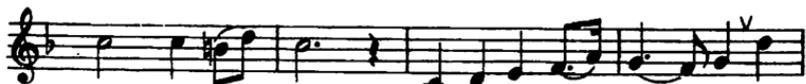
86 子らを憶う歌

山上 謙良 作歌

中村 知 作曲

Espressivo

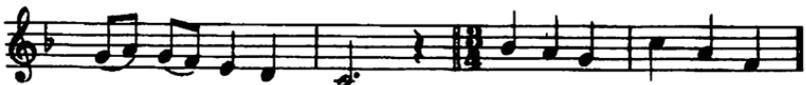
う り は め - ば こ ど も お も ほ - ゆ く



り は め - ば ま し て し め ば - ゆ い



づ く - よ - り き た り し も の そ



ま - な - か い に も と な か か り



て や す い し な さ - ぬ



子等を憶う歌

瓜食めば 子等憶ほゆ

栗食めば

況してしのばゆ

何処より 来たりしものぞ

眼交に

もとなかかりて 安寝し為さぬ

銀も金も玉も 何せんに

まされる宝

子に如かめやも

(一九四五年八月六日作)

兼しろがねも以下三行作曲者不詳

87 家にあれば

有馬皇子 作歌
中村 知 作曲



いえにあれば けにもーる



いいをくさーまくーら



たびにしあーれば しい



のーはにもる

家
に
あ
れ
ば

家
に
あ
れ
ば

箆に盛る飯を

草枕

旅にしあれば

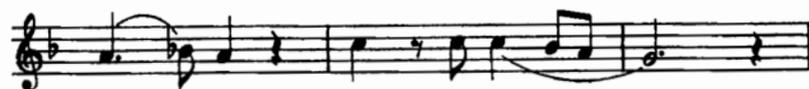
権の葉に盛る

88 宴を罷る歌

山上 憶良 作歌
中村 知 作曲



お く - ら ら - は い - ま は ま か



ら - む こ な く - ら む



そ の - か の - は は - も - あ を ま つ ら む ぞ

宴^んを^ま罷^る歌

憶^か良^から^は

今^いは^ま罷^らむ

子^こ為^をく^らむ

其^その^の彼^かの^の母^も

吾^わを^を待^まつ^らむ^ぞ

(一九四五年八月七日作)



あ と が き



中 村 知

私の作詞、作曲したものを集めて、本にしてあげるから、まとめてください、といわれた。

私の歌曲集は、これまでボーイスカウト日本連盟発行の歌集に一部のせられたり、有志が謄写版ずりで出して下さったこともあるが、そのほかに、未発表のものもあるし、また今の時代では、とうてい歌われそうにもない古い作もある。そういうものも、このさい一応しらべてみる気になって、いわれたとおり集めてみた。

集めてみて、私はまったく苦笑してしまった。なあーんだ、これは音楽じゃないではないか……。ボーイスカウトの説明書、あるいは、その指導資料にほかならぬ——。文字で書くべきところをオタマジャクシであらわし、それにリズムも考えないで作詞をつけたにすぎぬ。

音楽の専門家が見たら、眼の色をかえておこるにちがいない——
「音楽を冒瀆する！」と……。

なるほど、これは、これまでの音楽の通念では脱線とみられるにちがいない。それは無理もないと思う。しかし、私は、作曲家または作詞家ないしは音楽家として、これを作ったのではない。私は、60年の長きにわたる私のボーイスカウト、ならびにその指導者（スカウター）としての生活の所産として作ったのであることを、ご理解いただきたい。

いまひとつ、私の考えでは、音楽のなかに「スカウト・ソング」(Scout Song)という新しいジャンルを作ってもさしつかえないだろう——ということである。

スカウトの生活、そしてその教育に、歌(Song)は、欠くことのできない要素とされている。そういう新しいジャンルの、開拓と建設に、いささか、つくしてきた私を、この歌集で、ご覧いただければ幸いである。

この歌集について、ふたつのお願ひがある。

第一は、ボーイスカウトの諸君が、この歌集によって、スカウト精神を高め、りっぱな市民(公民)となって、世のために尽してほしいこと、また、リーダー各位は、この歌集を活用して、新しい指導法を創作されたいことである。

第二は、教育の目的と方法、カリキュラム、単元の組み立てをおわかりいただきたいことである。

最後に、スカウティング(スカウト教育)は、国家的であり、国際的であり、かつユニバーサル(平等無差別=世界的)なものである。

この歌集も、愛国心、国際友好心、スカウト兄弟愛を育て、結局は、ヒューマンズをめざしている。単なる情操教育や芸術的教養をねらっているのではないことを付け加えさせていただきたい。

なお、標題の「ちーやん」は、私が大阪府立高津中学校(現在高校)在職中(そのボーイスカウトの団長だった)に生徒からもらったニックネームで、それが、ボーイスカウト界にも伝えられて、今にいたったものである。私に、このニックネームをおくってくれた、往年の愛すべき腕白どもが、いつまでも達者で幸福であるよう祈るとともに、この歌集の出版を企画し、その実現につくしてくださった各位、とりわけ、鶴書房社長 田中博之氏(高津中学21期)と、ボーイスカウト歌集にのせられた歌曲を、この歌集に収録することを了解され、いろいろご協力くださったボーイスカウト日本連盟の皆様とに心からの感謝をささげて、あとがきの筆をおくこととする。

著者略歴

- 中村 知 (筆名 東野通義)
明治27年 愛媛県松山市生まれ
大正11年 京大文学部史学科卒業
昭和14年 少年団日本連盟教務部長
昭和16年 大日本青少年団練成局
少年部長
昭和24年 広島市立児童図書館初
代館長
昭和25年 ボーイスカウト日本連
盟那須野営場長
昭和30年 ボーイスカウト日本連
盟奉仕部長
昭和39年 ボーイスカウト日本連
盟嘱託現在に在る
昭和41年 永年青少年育成指導の
功により勲五等瑞宝章
をうける



ちーやん歌集 スカウトの歌

昭和44年1月10日 印刷 著者 中村 知
昭和44年1月20日 発行 発行者 ちーやん歌集刊行会
発行所 鶴書房盛光社
東京都千代田区富士見2-12-1
印刷所 朝日写真製版KI
